

ラフタフ第八回公演台本

泥と星 〜MIRE AND STAR〜

作・演出 萬野 展

登場人物

久保鈴^{レイ} 元声優。独身。

室田夕^{ゆう} 会社員。独身。

杉浦玉男^{たまお} 無職。刑務所を出てきた男。

世良龍一^{りゅういち} 家具会社社長。

久我紀子^{のりこ} 室田の同僚。

千堂千尋 横浜警察署警部補。

木場優吾 料理店勤務。室田夕の弟。

綿引志津枝 心療内科医。

帽子の男 杉浦を追う男。

【注記】当脚本の著作権は萬野展が保持する。当脚本の無断上演を禁ずる。

膝を屈し地に伏し
泥にまみれるを潔しとせず
さりとして、蒼穹にはばたく
翼もなく
見上げれば、天に星
かくて人の子は
ただ息ひそめ佇む
泥と星の間に

合沢 直斗『青』より

1 プロローグ・夜の公園

水銀灯に照らされた都会の夜の公園。
女（久保鈴）登場。
女は酔っている。

久保 （ベンチを指さし）ベンチっ！……座る。

よろめきながら女は結局ベンチに座らず、地べたに座る。
バッグの中のをバラバラとまき散らしながら、携帯電話を取り出す。
女はやおら腕まくりし、自分の肘を携帯で写真に撮る。

久保 うー。あー。気持ち悪い。……ん？……気持ちいい？ あれ？……気持ち悪い
か？ あれ？ どっちだ？

じっと考え込んでいる。

久保 アやっぱ気持ち悪い……

携帯をブッシュする。

久保 るるるるるるる……うん。ただいま電話にであれませんか。うん。そうか。留守
番電話センターにおまえは誰だっ！……あそつ。うん。わかった！ ピーッ。ピー
だとオ。誰に断ってピー……もしもッ！ 龍ちゃん！ あたしッ！ 鈴ちゃん！
今送ったのは、あたしの肘ッ！ わかるでしょ！ 助けてッ！ 今ね、あのね、
（キョロキョロ）港の見えない公園にいるからッ！ よろしくッ！……ピーッ！

携帯を切る。ぐったりする。
男（杉浦）が登場している。

久保 ……

男と目があつ。さすがに警戒して散らばった荷物をかき集める。

杉浦 ……

いったん通り過ぎようとした男は、ふと立ち止まり、もどってくる。
久保、あわてて、バッグの中から武器になりそうなものを探して握りしめる。

杉浦 あのね。

久保 な、なに？

杉浦 危ないよ、こんな時間にこんなとこにひとりでしたら。

久保 う、うん。

杉浦 帰ったほうがいいよ。

久保 ……で、電車ないから。

杉浦 もっと人のいるところ行ったほうがいい。

久保 ……ハイ。

杉浦 じゃ。

久保 じゃ。

ふたり、動かない。
久保は不安で緊張している。

杉浦 …行かないの？

久保 えっ、なにが。

杉浦 どっか。

久保 行く。

杉浦 行ったほうがいって。

久保 行く。

杉浦 どっちなの。

久保 わかんない。

杉浦 わかんないの？

久保 気持ち悪い。

杉浦 え。

久保 気持ちいい。

杉浦 どっちなの。

久保 あやっぱり気持ち悪…うえッ

杉浦 …困った人だな。

杉浦、つかつかと近寄り、久保を抱き上げてベンチに座らせる。

久保 うう…

杉浦 ホラ、楽にして…

久保 ありがとう…

杉浦 これなに？

杉浦、久保が武器として握りしめている爪切りを見る。

久保 いちおう、武器です。

杉浦 ああ、じゃあ、持ってな。

久保 ハイ。

並んで座るふたり。

杉浦 …電車動くまで…あと…(時計をしていない)

久保 (携帯の時計を見て)三時間。

杉浦 それ、携帯電話？

久保 うん。

杉浦 ずいぶんシヤレた形になったんだな…。

久保 …。

杉浦に携帯を渡す久保。
手にとって眺める杉浦。

久保 キレイな爪してる。

杉浦 ん？ ああ。身だしなみにはうるさいところにいたからね、昨日まで…

久保 へえ…。

杉浦 この裏になにかあるか知らないの？

久保 うらつて、あつち？
 杉浦 そう。
 久保 知らない。
 杉浦 あそつ。
 久保 なにがあるのデスカ。
 杉浦 …。

杉浦 それに答えず、携帯を返す。

杉浦 さつき唄つてた歌…。

久保 ん？

杉浦 聞いたことがある。

久保 …。

杉浦 もう一回唄つてくれない？

久保 …。

久保 …るるるる、るるるる、るるるる…

杉浦 なんの歌、それ？

久保 …え… ロボの歌。

杉浦 …あ…

久保 自転車、買うなら…

杉浦・久保 ロボがいい…

久保 コマーシャルソング。

杉浦 そうか…

久保 ロボくなければ…

杉浦・久保 ロボじゃない…

久保 ね。

杉浦 そうだそうだ。思い出した。

久保 そりゃよかった。

杉浦、手帳を取り出し、何事か書き込みはじめる。

久保 …。(黙ってながめている)

杉浦 (書き終えて) よく覚えてたな。

久保 なにが？

杉浦 古いだろ、この唄。確か、爆発的に流行して…すぐ消えた。

久保 流行つてそういうもんじゃない？

杉浦 まあな。

久保 ねえ。

杉浦 ん。

久保 なに書いてたの？

杉浦 …。歌詞。

久保 歌詞？

杉浦 そう。

久保 ロボの歌？

杉浦 そう。

久保 なんて？

杉浦 …。思い出したことを全部書いておくんだよ。

久保 だからあ、なんで。

杉浦 医者にそう言われてる。

久保 医者？ 病気なの？

杉浦 …。ああ。

久保 なんの病気？

杉浦 …。ココさ。(こめかみのあたりを指さす)

久保 人差し指？

杉浦 …。(指を変えたり両手で指したりする)

久保 冗談だから。ひどいの？

杉浦 そうでもない。もう直ってきてるって医者は言ってる。ただ…以前の記憶がところどころ、飛んでる。一日分だったり、一ヶ月分だったり…長さはいろいろだけどね。

久保 それで…書いてるわけ？

杉浦 …。怖いんだよ。

久保 …。

杉浦 記憶に穴があるのが怖いんだ。だからこうして、穴の縁ギリギリまで行って、穴の深さを測りたい。そうしなくちゃいられないんだよ。

久保 …。

ふたり、やや黙る。

杉浦 これからどうするんだ。電車動くまでここにいるのか。

久保 わかんない。でも…さっき電話したから…。

杉浦 ああ…誰か迎えにくるのか。

久保 こないかもしんない。いちおう…肘の写真送ったけど…

杉浦 写真？

久保 彼、肘が好きなのよ、肘フェチ。

杉浦 写真で？

久保 ん？ これ。ハイ。

久保、携帯で杉浦を撮る。

久保 ね。だからね、肘写真送ったら緊急発信って、決めてあったのさ。

杉浦 写真を送るって？

久保 だから、合言葉みたいなもんよ。でね、あたしは指フェチだから、指写真送ってくんの。

杉浦 携帯で写真が撮れるのか？

久保 なに言ってるの？

杉浦 じゃあ今俺を撮ったのか。

久保 うん。

杉浦 …。

杉浦、久保を見つめる。

久保 なにさ。

杉浦 この裏になにがあるかホントに知らないのか。

久保 しらないわよ。

杉浦 あんた、昼間どこにいたんだ。

久保 え…横浜のほうで飲んでて…電車乗ったら反対方向来ちゃって、終点でありて、なんか気がついたら…

杉浦 この公園を奥までいくと高い壁がある。鉄条網とセンサーつきの二重の壁だ。その向こうが横浜刑務所だ。

久保 …。

杉浦 規律の厳しいところでね。爪も伸ばせない。

久保 …。

杉浦 知らなかったよ。携帯で写真が撮れるなんてね。

杉浦、ゆっくりと久保に近づく。久保身構える。

杉浦 そいつも書いておかなくちゃな…。

杉浦の体で久保が隠れる。

暗転

2
捜査開始

サイレンの音。車の音。

朝。公園。

ベンチには久保が倒れている。

ベンチの前に千堂警部補が立っている。

千堂 駄目だよそこ人入れちゃ。まだ閉鎖よ。

…塚田くん、塚田くん！ 鑑識終わった？ 写真も？ はい、ご苦労様。

牧村。牧村！ 終わったから運んじやつて！ いいよ。

あ塚田くん！ ちよつといいかな…あのさ…

千堂 いったん退場、小瓶持って登場

千堂、鑑識にもらったアンモニアをハンカチにしませ、寝ている久保に嗅がせる。

久保 …んん。

千堂 お嬢さん。起きてくれませんか。

久保 なに…ここどこ…なんか…臭い…

牧村 だいじょうぶですか。

久保 ああああ、頭いたい…

牧村 あの、よかつたらですね、お話伺いたいんですけども…

久保 え、いや、…ちよつと待って…ごめんなさい…ここどこですか？

千堂 あのね、お嬢さん。こっちから質問しますから、答えてもらえますか？

久保 はい？ なに？

千堂、手帳を開いてみせる。

千堂 千堂警部補です。よろしく。

久保 はあ。はい。え、警察…？ えっ。(あたりの騒ぎにきづく)

千堂 お名前教えていただけますか？

久保 あの、西久保。

千堂 西久保さん。なにか身分を証明できるもの持っていますか？ 免許証とか。

久保 え、ちよつと待って、あたしなんかマズいことしました？

千堂 マズいこととは？

久保 あの、えーと、酔っぱらって、気分悪くなって、ここに寝てただけなんですけど…

千堂 昨日の晩からずっとここにいましたか？

久保 たぶん。

千堂 ずっと、このベンチで一晩中？

久保 ええ、いえ、あの、起きてました。いつの間にか…

千堂 起きていた間に、なにか、変わったことはありませんでしたか？ 物音とか、人

影とか…

久保 …あの…男の人が…

千堂 確かですか？ いくつぐらいの？

久保 え、三十歳くらいかな…ここに座って…話を…

千堂 西久保さん、立てますか？

久保 え…たぶん…。

千堂 この向うのブロックに私たちの役所があります。横浜警察署です。そこまで同行願って、ゆっくり思い出してもらえたいへん助かるんですが。

久保 え、ちよつと待ってよ。なんであたしが…、

千堂 …本日早朝、この公園で男性の他殺死体が発見されました。年齢は六十台前半。状況から見て午前一時から午前三時までの間に殺害されたものと推測されます。

久保 …え…

千堂 …ですからね、西久保さん、あなたが夕べ話をしたというその男のことを、詳しく思い出してもらわないといけないんですよ。

舞台外で騒ぎ起こる。

声（世良） …すぐそこだから、いいじゃん。オイ、放せばいいんだよ！ すぐそこなんだから！

千堂 …なにやっつてんだ…

久保 …あつ、龍ちゃん！

千堂 …お知り合いですか？

世良（登場） …放せばいい…！ たたくもう！

千堂 …あー、いいよ、ごくろうさん。

久保 …龍ちゃん来てくれたんだ。

世良 …来たよ。探したよ。港見えるじゃないの。

久保 …え、ああ、昨日は暗くて見えなかったんだもん。

世良 …どうなっつてんだこれ。何の騒ぎなんだ。

千堂 …あの、もしもし。勝手に入ってこられちゃうと困るんですが…。千堂です。あなたは？ 西久保さんのお知り合い？

世良 …ウン。

久保 …あたしが昨日電話で呼んだんです。

千堂 …お名前は？

久保 …世良。

千堂 …セラさん。西久保が電話で？

久保 …電車なくなっっちゃって、それで、留守電に…

千堂 …それを聞いてここに？

世良 …ウン、朝留守電に気づいて…（久保に）指写真送ったんだぞオレ。

久保 …そっか！ あたし肘写真送ったんだ！

世良 …そっだよ、だからオレはあわてて電話したら変な…

千堂 …あのぉ、話が見えなくなってるんですが、えーと、世良さんからの電話には、西久保さんは気がつかなかった？

久保 …ええ…えーと…あれっ、あれエ？

千堂 …なんです？

久保 …携帯…ない。

千堂 …確かですか？ 昨夜はあつたんですね？

世良 …あのさ、

久保 …持つてました。

千堂 …その男と話したときには。

世良 あのね、あのさ、
久保 持ってました！ それで携帯の話して…あっ！
千堂 なんです。

久保 そうだ、あたし…その人撮りました。

千堂 とった？

世良 …（黙って拳手している）

久保 携帯で。

千堂 写真を撮ったってことですか？ その男を？

久保 （激しく頷く）

世良 ハイ。ハイ！

千堂 はい。

世良 オしたぶんそいつと話したわ。

久保 え？

千堂 ああ…（理解した）

世良 だから、朝お前の携帯に写真送って、かけたら、出たよ、男が。

転換明かり。

久保、世良、退場。

千堂、捜査部屋に立つ。

千堂 えー、携帯電話を持ち去ったその男が誰なのかということは現在、横浜刑務所の最近の出所者からの割り出しを急いでおります。それから被害者の身元ですが、司法解剖の結果被害者の右腕に点滴の跡があり、これが新しいことから、横浜付近一帯の病院を当たっていますので本日中には割れると見ております。検死報告によれば、凶器は細いアイスピックまたは千枚通し状のもので咽頭部をひと突き、これが後頭部の延髄付近に到達、ほぼ即死に近い状態であったと思われる。手口は鮮やかなもので、まったく躊躇のあとがみられず、素人が衝動的に犯行に及んだとは到底考えられないことです。

現場公園付近はすでに封鎖を解いておりますが、各班地割り表にしたがって聞き込みは続行してください。以上。…ああ、それから。

全員窓の外を見て。見えるでしょ。あれが犯行現場。これだけ我々のお膝元で堂々とやられたんだ。このヤマ、お宮入りさせるようなことがあったらどうなるか。わかってるね、みんな。…じゃよろしく。解散。

千堂、退場。

港の見える公園。

室田タとその同僚・久我紀子。

久我 ねえ先輩知ってます？

室田 なに？

久我 ブルガリア人の八割は、日本人が今でも刀を差してチョンマゲを結っていると
思っているんだって。

室田 あんた、なに読んでんの？

久我 ブルガリアかあ、行ってみたいなあ。

室田 行ったらいいじゃない。

久我 先輩はいいなあ。一ヶ月かあ。
 室田 別に海外旅行に行く予定はないけど。
 久我 わかってますよお。

久我、雑誌を読むのをやめ、伸びをして空気を吸い込む。

久我 ー。なんかすがすがしいなあ。ちょっと寒いけど。やっぱり港の見える公園はいいですね。

室田 だからね、なんであんたがいるのよ。

久我 ですから、昨日たまたま優くんと電話で話したら、明日姉ちゃんと会うからって。

室田 だからってなんで今日アンタが来るわけ？

久我 まあつもる話もあるし、

室田 電話で話したんでしょうが。

久我 あと、そう借りたCDも返さなきゃだし。ホラ、横道坊主と渋さ知らズ。

室田 どっちも知らん。

久我 そういえば優くんびっくりしてましたよ、先輩が一ヶ月休みとったの知らなかったって。

室田 言っていないもの。

久我 姉弟のくせに何にも話さないんですねえ。

室田 わざわざ言うほどのことじゃないじゃない。

久我 ふーん。じゃ今日は？ わざわざ会って話すほどの事があるわけですか？

室田 …。

久我 …。先輩、聞いてもいいですか？

室田 なあに。

久我 このまま、会社辞めちゃうんですか？

室田 なに、いきなり。

久我 だって…前代未聞ですよ、一ヶ月休暇なんて。

室田 有給と、誰も使わない、いきがい休暇とかいうの、合わせて取っただけよ。あんなにだつてできるじゃない。

久我 あたしにはそんな度胸ないです。まあ先輩くらいですよ、そんなことできるの。

室田 もともとにらまれてるからな。

久我 ハイ。

室田 …。

久我 で、そのココロは？

室田 別に…辞めるつもりない。辞めさせられるなら別だけど…。

久我 じゃあなんですか？ えーと、自分探し？

室田 そんなもの探してどうするの？

久我 さあ。

室田 …あわなきやいけない人がいるのよ。

久我 あわなきやいけない人？ それって…

室田 それが片付くまで、当面のいろんなことは保留…

久我 保留。

室田 そつ、保留。

久我 保留、ねえ…。

室田 保留。

木場、登場

木場 夕姉ちゃん。

室田 元気？

久我 うん、まあ。紀ちゃん。(あいさつ)

木場 (あいさつ)

室田 おじさんたちは？ 元気？

木場 近いんだからたまには顔出せつてよ。

室田 うん。

久我 あのう、CDも返したことだし、あたしはこのへんで…

室田 いいわよ、つもる話があるんでしょ。

久我 いやいや、ご姉弟のほうがもつとつもってるでしよっし…

室田 すぐ済むからいなさい。あのね優吾、あたし杉浦さんに会うから。

木場 ああ、そういうこと…

室田 決めた。やっぱりスッキリしたいしね。

木場 スッキリするのかなあ。

室田 そりゃ会つてみなちゃわかんないけどね。それだけあんたに言つとこつと思つて。

木場 いつ会つもの？

室田 今夜。あんたどうする？

木場 …俺はさ、それほどこだわりがないんだよね。あのときも俺、室田の家の人間じゃなかったし…性格的になんか性格的に、済んじゃったことはどうでもいいかなつて思つちやうタチなんだよ。

室田 そうよね。あんたはそれでいいのよ。あんた木場優吾なんだから。

久我 …あの。姉弟のつもる会話中申し訳ないんですが…やっぱりわたし退散させていただくのかなあなんて。

室田 ごめん、もう済んだから。

木場 うん。飯でも食おうよ紀ちゃん。別に予定ないだろ、今日。

久我 うん…せっかく横浜出てきたから、おじいちゃんところに寄つてこつかなつて…

室田 横浜にいるの？ おじいちゃんて。

久我 話しませんでしたっけ。入院してるんですよ、こつちの病院に。

室田 そうなんだ。

久我 ですからおふたりはごゆつくり。わたしは久しぶりにおじいちゃん孝行してきますんで。

その時、久我の携帯が鳴り始める。

久我 あれまあ、お母さんだ。ちよつとごめんなさい。(出る) はい紀子です。なあに？ 今ちよつと横浜で…え？…はい。はい。…ちよつとそれつて…はい。わかりました。とにかくすぐ行きます。お母さん、お母さん…とにかく落ち着いて。ね。なにかあつたの？

久我 ごめんなさい、あたしすぐおじいちゃんの病院に行きます。

木場 おじいちゃんの具合？

久我 ううん、そうじゃなくて……。おじいちゃん、病院にいないらしいの。

木場 いないって…だって…

久我 今朝、いなくなったらしいの。それで…今朝病院のすぐ近くの公園で…七十歳くらいのお年寄りが殺された事件があったらしくて…

室田、木場、顔を見合わせる。

久我 お母さんは今病院で、あたしお母さんと合流して、横浜警察に、これから行ってきます。(無理に笑顔を作って)ごめんなさい、なんかドタバタしちゃって。

久我、走って退場する。

室田 優吾。

木場 俺、ついてくわ。姉ちゃんは？

室田 あたしもいくわ。

木場 紀ちゃん、ちょっと待った！

室田、木場、紀子を追って退場。

横浜警察署

千堂、久保、世良登場。小部屋に入る。

千堂 これが最近横浜刑務所を出た人物の顔写真です。顔憶えてますね？

久保 たぶん…。

世良 けっこういるんだなア…。

千堂 これでも絞り込んであるんです。三十代男性。携帯で写真を撮れることを知らなかったのなら二年や三年の刑期ってことはないでしょう。大事なことですから一枚ずつよく見て思い出してください。

久保 了解しました。

千堂 で、世良さんは…別室でお待ちいただいてもよろしいですか。

世良 なんて？

千堂 いや…ここにいてもすることないでしょ。

世良 そんなことない。応援。な。

久保 ウン。

千堂 気が散りませんか？

世良 散らない。大丈夫。

千堂の携帯が鳴る。

千堂 ハイ千堂。ああ、うん。…ちょっと失礼。

千堂、部屋を出る。

世良 よし、ガンバレ！

久保 …(写真をじっと見ている)

部屋の外。

千堂 うん。そうか。なるほど。で、家族は？ ああ、もう来てるのか。確認できそうか。うん。そんなに興奮してるのか。しょうがないな。じゃあその孫娘が病院に来たら、すぐこつちに連れてきて確認させよう。うん。うん。

千堂、話しながら退場。
室内。

世良 … オイ。

久保 … (まだ一枚目を見ている)

世良 オイ!

久保 え。

世良 一枚にどれだけ時間かけてんだよ。もっとこう、テンポよくいこうぜ。

久保 いやア…この人さ、そんなに悪人に見えないよね。

世良 どれ? うーん…でもなんか暗そうだぞ。

久保 キレイな目してるじゃない。

世良 そうかあ? ……え? こいつなの? いきなり一枚目?

久保 ううん、ゼンゼン違う人。

世良 オマエな…。次にいけ! 次!

刑事部屋。

千堂、登場しつつ、

千堂 みんなちよつと聞いて。今牧村から電話があった。被害者の身元。港南大学病院で今朝、長期入院の男性患者がいなくなったそう。カルテと検死報告を照合したところほぼ間違いない。久我巖。年齢七十八歳。すでにこちらに向かっている家族が到着しだい確認。マスコミにははっきりするまで下手なことは言わないようにね。

ん? そりゃ君、本当に被害者が久我巖なら記者発表しないわけにいかないだろ。…ちよつとオイ、誰かアイツに教えてやって。

久我巖はね、四年前引退するまで厚生省の黒幕と言われた大物官僚よ。…みんな、これ、ホントに下手するとえらいことになるから。気に入ってかかって。いいわね?

千堂、退場。

小部屋では部屋中の床に世良が並べた写真を久保が見ている。

久保 … ゼンゼンわからん。

世良 だからさ、もつとこう、パッパツと見ろよ。なんでそう一枚一枚長考するんだよ。

久保 だってサ、なんかこう、人生、って感じるじゃない?

世良 いいんだよ、今人生は関係ないの。

久保 うーん…。ねえ、だけどさ、あの人なんで携帯持ってたのかなあ…。

世良 だって写真撮ったんだろ、お前。

久保 撮ったけどさ。結局こうやってわかつちやうわけじゃない。

世良 まだぜんぜんわかってねえじゃねえか。

久保 だいたいさ、顔がわかって困るんだったら、わざわざ話しかけなきゃいいんじゃないだろうか。

世良 まあなあ。寂しかったんじゃないの?

久保 だからさ、わざわざ携帯持つてく意味なんかないよね。

世良 …。

久保 でしょ?

世良 なるほど。

千堂登場。写真を踏みそうになる。

千堂 …なにやっってるんです？

世良 いや、こつしたほうが見やすいから…。

千堂 ああ、まあご自由に。すみませんが、被害者の家族の方が見えてるんで、すこし席外します。すぐ戻りますので、よろしく。

世良 はい。ご苦労さま。

千堂、退場。

世良 どうだ？

久保 (写真を一枚拾い上げる)…うーん、違う。

警察署外。

久我紀子、室田、木場、登場。

久我 室田さん、ありがとうございます。

室田 だいじょうぶ？

久我 (頷く)

室田 お母さんは？

久我 だいぶ落ち着きましたから。

室田 そう。

久我 あたしなんか偽だけど、本物のお嬢様だから、彼女…。

室田 お爺様、なんだかえらい人だったみたいね。知らなかった。

久我 長いこと厚生省にいたんです。体壊して引退するまで…。あの、ホントに、心強かったです、先輩と一緒にいていただいて。変なことになっちゃってすみませんでした。

室田 …はじめてじゃないの。

久我 え？

室田 …さあ、お母さんのそばにいてあげなさい。

久我 ええ。

久我、頭を下げ退場。

木場 姉ちゃん。

室田 あんたいなかったからわかんないでしょ。…同じよ。死体を確認する前の、あの気持ち。今でもはっきり思い出せる…。

木場 夕姉ちゃん。

室田 …。

木場 さっきも言ったけど…スギウラって人に会って、ホントにすっきりすると思ってる？

室田 会ってみなきゃわからないわ。

木場 会ってみても、なにも変わらないんじゃないかな。

室田 …。

木場 オレもはっきりいうよ。そんな人に会ったってしょうがないってオレは思ってる。

室田 ……そう。

木場 姉ちゃんは結局、いなくなった人のことが忘れられなくてもがいてるだけだろ？
会ってすつきりするって思うなら、なんでさっさと会いにいかなかったんだよ。
室田 面会謝絶だったのよ、ずっと。

木場 会ってなにも変わらなかつたら…それが怖くてグズグズしてただけだろ。

室田 言っじゃない。

木場 結局夕姉ちゃんは、真由美姉ちゃんのが消化できなくて問題を先延ばしにしてるだけだよ。

室田 あんたになにがわかるのよ！

木場 誰に会ってなにを聞いたってスッキリなんかしない、何も解決なんかしないってことぐらいオレにもわかるさ！

室田 あたしは納得したいのよ！

木場 納得する気がないだけだろ！

室田 ちがう！ 杉浦は…あの人は彼女と話をしてるかもしれないのよ。あたしたちには言わなかったことを話してるかもしれない、だから…

木場 結局どんな答えが返ってきたって納得なんかできないって、自分が一番わかっているだろ。

室田 ……言いたいことはそれだけ？

木場 いや。

室田 言ってちょうだい、全部。

木場 ……オレも行くよ、今夜。

立ちつくす二人

警察内、小部屋

久保 あ…。

世良 ん…？

久保 これ。

世良 ん？

久保 これ！

世良 これ？

久保 これ！

世良 これ！ これ！ 刑事さん！ これ！ これ！

世良と久保、写真を持って退場。

刑事部屋。

千堂登場。

千堂 遺族の確認により、被害者は久我巖と特定されました。記者発表は今夕一八時です。なお、昨夜二時頃現場付近で目撃された男性は目撃者の証言により、横浜刑務所を出所した杉浦玉男であることが判明しました。杉浦は元医師、麻薬の常習、病院から薬物の持ち出し、および取引相手の暴力団組員、岩淵光市を殺害した廉かどにより懲役十年の実刑判決を受けています。所内では精神に失調を来たし、刑期のほとんどを病棟で過ごしています。担当医は綿引志津枝医師。すぐ当たってください。

とにかく、杉浦の足取りを全力で追い、身柄を拘束してください。できれば…記者発表までの、八時間のあいだに。……以上。行動開始。

暗
転

3
交錯

世良、久保。久保家前（外）。夕方。

世良 ホントにだいじょうぶか？

久保 うん、だいじょうぶ。

世良 もう少し一緒にいようか？

久保 龍ちゃん仕事でしょ。

世良 お前さ、ホントになにも憶えてないのか？

久保 なにがあ？

世良 携帯でその…えーと、なんだっけ？ 刑務所出たばかりのヤツ…

久保 スギウラ。スギウラタマオだっけ。

世良 そいつの写真撮ったあと、そいつが、こっ、近づいてきて、

久保 うん。

世良 それで気が遠くなつて、

久保 そう。

世良 気がついたらあの千堂って刑事が立ってたわけ？

久保 いかにもその通り。

世良 ふーん…。

久保 なによう。

世良 それ、おまえ、アレじゃないのか？

久保 違うわよ。

世良 だつてさあ…

久保 ず〜つとなかつたんだから違うわよ。

世良 ……そうかなあ

久保 お酒飲んでたから、そのせい。

世良 そう言い切れんのか？

久保 ……。

世良 あのな、鈴、オレにはホントのこと言えよ。

久保 鈴っていうのやめてよ。

世良 いいから聞け。お前が気失つてぶっ倒れるたびにすっ飛んでくるのは昔っからオレの役目だ。そりゃこっ、三年は出なかつたけど、お前ずっと医者に行つてないんだし、なおつたとは限らないんだぞ。

久保 ……。

世良 オレは別にそのことを負担に思つてるわけじゃないからさ。だからオレにだけは正直に言えよな。

久保 言つてるよ。

世良 そうか？ そんならいいんだけどな…。

久保 ……。

世良 (黙ってしまった久保の様子を気にして) 別にお前の生活をさ、どうこつこつもりはないんだよ。お前はひとりで立派にやってるわけで、オレがお節介なだけなんだけども…

久保 龍ちゃんには感謝してるよ、いつも迷惑かけてるし。

世良 いや、いいんだよ、そんなのいいんだよ、ただ、ホラ、今回みたいに、なんだか危ないヤツに絡まれたりすると、面倒だろ。

久保 …あの入…

世良 …ん？

久保 スギウラって人…悪い人じゃないと思う。

世良 …。

久保 龍ちゃんの電話に出たとき、あの公園の名前言って、早く迎えに行ってやれって言ったんでしょ？

世良 ああ。だけどさ、あいつその久我なんとかっていう爺さん、殺したかもしれないんだぞ。

久保 殺したかもしれないけど悪い人じゃないような気がする。

世良 殺したら悪いだろ。刑務所入ってたわけだしさ。

久保 入ってたかもしれないけど悪い人じゃないような気がする。

世良 かもじゃなく入ってたの、刑務所は。またおまえ得意の思いこみが…

久保 龍ちゃん、携帯貸して。

世良 なんでよ。

久保 あたしね、昨日の夜、あの人に言い忘れたことがあるの。龍ちゃんの携帯にかかってくるかもしれないじゃん？

世良 かかってくるわけねーだろ！

久保 おねがい。

世良 だいたい、万一かかってきたらすぐ警察に知らせろって釘刺されてんだぞオレ。

久保 おねがい。

世良 オレはどうすんだよ！ オレにかかってきた電話は！

久保 あたしの携帯からじゃなかったら出ないから。おねがい。

世良 …。

久保 一晩だけ。おねがい。

世良 おまえさ…

久保 おねがい。

世良 …そいつにホレたんじゃねえだろつな。

久保 ちがうよ。

世良 …(ため息ひとつ)ホレ。

久保 ありがとう。

世良 明日の朝までだぞ。

久保 ありがとう。

世良 明日仕事場行く前に様子見に寄るから、そんなとき返せよ。

久保 ありがとう。

世良 …じゃあ、行くわ。

久保 龍ちゃん。

世良 …ん。

久保 ごめんね。

世良 …。

世良、退場
 久保、家に入る（退・登場）
 考えている。指写真を撮る。送信。考えている。ダイヤルする。

久保 （留守電だった）…あの、もしもし、あの、これはあたしの携帯ですか。あたしは携帯の持ち主で久保鈴です。あの、あなたは杉浦さんですか？ 昨日はありがとうございました。あたし、あなたにひとつ言い忘れたことがあって…あの…その携帯、たぶんもう電池が切れると思う。もしよかったですらかけ直してください。…では！

間。
 いきなり携帯が鳴る。

久保 !…うそッ！（迷うが、出る）…もしもし…あ、あの…昨日は…えっ？…あの、なんで…うん、うん、…いいけど…じゃあ、じゃあ場所教えてよ…えっ？…なんで窓から…警察ウ？…なんであたしに見張りが…え、うん、そりゃそうだけど…。じゃあ、見つからないように外に出ればいいのね？…わかったわよ、ちよつと待って…。）そーっと靴を持ってきて、窓を開ける（わ、雨降ってるじゃん…。

久保、退場
 場転。夕刻の駅前広場。
 室田夕登場。待ち合わせ風。雨を少し気にする。
 帽子をかぶった男が登場。
 少し離れて座る。

帽子の男 すいません、今何時ですかね。

室田 五時三十五分です。

帽子の男 ああ、どうも。…あいにくの雨ですねえ。

室田 …。

帽子の男 それにしても、早いですね。約束の時間までまだ二十五分もある。

室田 …。

帽子の男 ああ、こっち向かないで。そのまま。…向かいのコージーコーナーのウィンドウの中、新聞読んでる男とケーキ食ってる男が座ってるでしょう。あれは刑事です。

室田 あなたは…

帽子の男 ああ、こっち見ないで。違いますよ。私は杉浦玉男じゃない。

室田 どうして…

帽子の男 あなたが杉浦宛に出した手紙。知ってますか？ 刑務所に来る手紙は全部検閲が入るんです。だからああして刑事が来る。

室田 …。

帽子の男 残念ですが杉浦はここには来ません。ヤツは今警察に捕まるわけにはいかないんです。

室田 …杉浦さんはどこにいるんですか。私、会わなきゃいけないんです、あの人に。帽子の男 どうしても？

室田 ええ、どうしても。

帽子の男 刑務所を出たばかりの杉浦がどうして警察に追われてるか、知りたくはないんですか？

室田 そんなことはどうでもいいんです。今あの人が何をしています。私は…

帽子の男 お姉さんのことを聞かすには無理じゃない？

室田 …。

帽子の男 杉浦に手紙を見せてもらいました。あいつは言っていました。あなたに会うことを拒む理由はなにもない、だがしかし、自分はこの場所に出てくるわけにはいかない。そこで彼は私に頼んだんです、あなたを彼のいる場所まで連れてきてくれるように、と。

室田 …。

帽子の男 信じるか信じないかはあなた次第です。室田さん、これ以上ここにしていると私はあいつらにマークされます。行くなら、今です。

室田 …（時計を見る、弟はまだ来ない）

帽子の男 よろしいですか？

室田 ええ。

帽子の男 ではまず私が立って、向こうに行きます。あなたは反対側に歩いて行ってください、あの歩道橋のところまで、ゆっくりと。歩道橋を使って向側へ渡る。そこへ私が車を回しますから、それに乗ってください。いいですね。

帽子の男、立って歩き出す。

室田、再び時計を見る。弟は来ない。

立って歩き出す。

退場。

入れ替わりに木場登場。

見回すが姉の姿はない。

雨音が強くなっている。

木場、姉を捜しながら退場。

綿引医師のつとめる病院。

綿引、千堂。

千堂 綿引先生。

綿引 …。

千堂 （軽く頭を下げる）

綿引 （濡れた様子の千堂を見て）降ってきたんですね。

千堂 ええ、少し。

綿引 …。

千堂 先生、久我事件の記者発表、ごらんになりましたか？

綿引 いいえ。

千堂 結局杉浦の名前は出していません。事件が事件ですから慎重にという上の判断です。

綿引 賢明だと思いますね。…では、仕事が残っているのです。

千堂 綿引先生。待ってください。

綿引 …。

千堂 しつこいようですが、本当に杉浦から連絡はありませんね？

綿引 ええ、先ほど電話でお答えした通りです。

千堂 診療記録に目を通したんですが、杉浦は先生をたいそう信頼していたようですね。なにか思い当たることはありませんかね。

綿引 千堂さん。私は医者です。そして杉浦玉男は私の患者です。患者に関することは…

千堂 わかってます先生、確かに先生は、杉浦が刑務所に入っていたときからの主治医です。そして刑務所に入所している患者を担当する場合、患者から入手した情報は、必要があれば当局に提供しなければならぬという規則があることをあなたはご存じのほうです。違いますか？

綿引 杉浦さんの刑期はもう終わっています。彼はもう囚人ではありませんよ。

綿引 …。

千堂 綿引先生、私は杉浦がやったと決めつけているわけではないんです。ご存じの通り、当時薬物を常用していた杉浦は、薬の取り引きがあった暴力団の構成員といざこざを起こし、逆上して相手を殺した。そして杉浦は実刑判決を受けた。ちょうど十年前のことです。

綿引 …。

千堂 まあ、そう珍しい事件じゃありません。ところが…です。

綿引 …。

千堂 問題は殺された久我巖なんです。彼が引退したのは表向きは健康上の理由ですが、実情は新薬認定をめぐる不正疑惑に関係していることは公然の秘密ですよね。

綿引 四年前ですね。

千堂 ええ、厚生省と特定の医療法人との癒着、新薬の認可を得るためのデータ改ざん、ねつ造、そしてそこに暴力団が絡む。当時はずいぶんマスコミを賑わせたものですが、世間は忘れるのが早い。疑惑は結局疑惑のまま終わった。久我巖は無傷のまま引退しています。

綿引 それと杉浦さんとういう関係が？

千堂 … 先生とは長いつきあいですが。先生ほど頭の切れる人はそういません。今回はひとつ、ぶつちやけて行きませんか？

綿引 そう言われても…

千堂 事件当時杉浦が勤務していた病院は香西会病院。医療法人香西会の当時の最高顧問は？

綿引 久我巖。

千堂 そうです。そしてもうひとつ、杉浦が殺した相手、岩淵光市が所属していた暴力団は、厚生省スキヤンドルの裏で動いていたとされる組織の末端に連なっているんです。

綿引 …。

千堂 おわかりでしょうか？ 杉浦と久我のあいだには関係があるんです。それぞれの事件が起きた時には明るみにでなかったなんらかの関係が。

綿引 … 千堂さん。あなたは杉浦さんがやったと思っっているんですか？

千堂 可能性はありますね。

綿引 ぶつちやけて、と言っわりには本音をおっしゃらないんですね。

千堂 本音を言ってますよ。可能性は五分と五分です。

綿引 白か黒ならそれは五分でしょう。

千堂 いえ、そういう意味じゃなく…もっひとりいたんです。

綿引 もつひとり…杉浦さんを見たという女性？

千堂 (首を横に振る) あの公園は、横浜刑務所を一般街区から隔離するために作られています。それでもこのご時世、住みついたホームレスの一人や二人はいますよ。聞き込みの結果を総合すれば、死亡推定時刻にあの公園に、杉浦玉男の他にもつひとり男が…。

綿引 男？

千堂 身長一八センチメートル前後、痩せがたで、帽子を目深にかぶった男が公園に入るのを目撃されています。

綿引 …。

千堂 やったのはその男か杉浦かのどちらかです。それが誰なのかまったくわかりません。杉浦を容疑者として記者発表できなかった本当の理由がそれです。…わかるでしょ？ 杉浦の居場所を知る必要があります。早急に。杉浦自身を危険をさらさないためにもね。

綿引 …。

千堂 連絡、お待ちしています。

千堂、退場

綿引、退場

建設途中のビルの前。

帽子の男と室田、登場。

帽子の男 医療法人香西会って書いてあるでしょう。これはね、香西会が建設途中で法人を解散してしまっただために、放置されているビルです。

室田 香西会…。

帽子の男 この中に杉浦はいます。ここから先はあなたひとりです。

室田 あなたは誰なんですか？ 姉のことをご存じなんですか？

帽子の男 いいえ。私はただの友人ですよ、杉浦の。

室田 …。

帽子の男 それじゃ。

帽子の男、退場

室田の携帯が鳴る。

室田 …優吾。ちよつといろいろあつて、杉浦さんとはあたしひとりで会うから。…うん、ごめんね。…それが、どこだかよくわからない。…うん…それもよくわからない。…なんだか、乗りかかった舟つてやつ…ううん、こつちの話。とにかく、また連絡する。じゃあ切るわ。(電話切る)

室田、退場

ビル内。

室田、登場

室田 …。

薄暗い室内、誰もいない。携帯の明かりを頼りにうろたえる。同じようにうろたえるながら、久保登場。

久保 (こわいので口ボ鼻歌を歌っている) るるるるるる、ひー、怖い…
 室田 …誰っ?

久保 (声に驚く) わっ。

室田 …。

久保 なによあんた! びっくりさせないでよ!

室田 びっくりしたのはこっちよ。

久保 何なのよあんた。

室田 何なのってなに。

久保 あんた誰?

室田 そっちこそ誰。

久保 ここでなにしてんのよ。

室田 そっちこそなにしてんのよ。こんなところで。

久保 こんなところって何よ。あたしは人に会いにきたのよ。

室田 …。

久保 …。あんたもなワケ?

室田 そつよ。

久保 名前言いなさいよ。

室田 あんたから言いなさいよ。

久保 あんたが言いなさいよ。

室田 …室田。

久保 …久保鈴。

久保 …違っわよ、あんたの名前なんか聞いてないわよ。

室田 …会いに来た相手の名前聞いてんのよ。

久保 …杉浦…?

室田 …あんたもなの?

久保 …なに、文句あるの?

室田 別に。

久保 …なに、あんた杉浦さんの知り合いかなんかなの?

室田 あなたに関係ないでしょ。

久保 …なにそれ…

室田 …とにかくあたし杉浦さんに大事な話があるの。だから邪魔しないで。

室田、退場。

久保 …なにアレ。ム力つく…!

久保、反対方向に退場。

室田、単独登場。

久保、別の場所に単独登場。

久保 杉浦さん…どこですかー。久保鈴が来ましたよー。…あっ、そつだ。あたしっ
 てバカ。(携帯をダイヤルする) 確かバイブにしてなかったはず…

どこか遠くで携帯が鳴る。室田の方が近い。
 室田、音のする方へ退場。

久保 えっ、どこ? どこよ?

久保も音を追って退場。
同ビル別の部屋。
杉浦登場。
携帯に出る。

杉浦 ……杉浦だ…ああ、すまない、呼び出したりして…来てくれたんだな…ああ、ちよつとな…だいじょうぶだ、じつとしてれば勝手におさまる…ここは…三階のどこかだ…(物音)ちよつと待ってくれ…あんた今三階にいるのか…。…いったん切るぞ。

室田、登場

室田 杉浦…さん？

杉浦 あんた、誰だ？

室田 ……。

杉浦 なんて俺の名前を知ってる？

室田 杉浦玉男さん…あなたが…

杉浦 ……(強い頭痛に襲われ呻く)

室田 ……ぐあいが悪いんですか…？

杉浦 ……あんた俺を知ってるのか？ 悪いけど俺は…ちよつとばかり脳ミソにイカしてる…あんたのこと忘れちまってるかもしれない…。

室田 会つのははじめてです。

杉浦 そうかい。で？ あんたは？

室田 室田夕。

杉浦 室田…。

室田 室田真由美の妹です。

杉浦 ……。

室田 あなたが刑務所に入る前、香西会病院に姉は勤めていました。

杉浦 香西会病院…俺がいた病院だ…それは…

室田 十年前、姉は杉浦さんという男性とつきあってることを、私にだけ話してくれました。私以外誰も知らなかったことです。あなたの裁判の時も、姉の名前は出てこなかった。

杉浦 ……

室田 姉がそれ以上はなにも話してくれなかったの、私は自分で調べました。姉の言う杉浦玉男という人が香西会病院の放射線治療科の先生であること、事件を起して病院を辞めてしまったこと、そして…

杉浦 待ってくれ…

室田 ……

杉浦 そうだ…俺は…薬をやめられなかった…俺は香西会を辞めた…辞めて…

室田 そして病院を辞めたあと、岩淵という暴力団の組員を殺して、有罪になって刑務所に

杉浦、跳ね起きて室田の両肩をつかむ

杉浦 ……いわぶち…

室田 ……

杉浦 岩淵だ…俺は…病院の薬を…俺はあいつに流して…金を…
 室田 …手を
 杉浦 …俺はあいつを…殺したのか？ そうなんだな？
 室田 手を放してください。
 杉浦 そうなんだな？ 俺は岩淵を殺したのか？ 教えてくれ！
 室田 手を放してください！
 杉浦 教える！ 俺は岩淵を殺したのか！ どうなんだ！
 室田 …（かすかにつぶづく）
 杉浦 …。 すまない…つい興奮した…

杉浦、室田から離れる。

杉浦 それで俺は…刑務所に入ったのか…。 だけど、なんでだ？ なんで俺は…

室田 杉浦さん…あなたは…

杉浦 …ああ、そうだよ。イカしてるって言ったる。 思い出そうとしても駄目なんだ。 とつくに溶けて穴のあいたモナカで、必死に金魚掬いをやってるようなもんさ。

室田 …。

杉浦 だけどあんたのおかげで、岩淵の顔を思い出したよ。 そうか…あいつを…殺したのか…手帳があつたら似顔絵でも描いておきたいとこだな…（再度自嘲）

久保、登場。

久保 見つけた！ 杉浦さん。 久保鈴参上！

室田 ちよつと黙っててくれる。

久保 わかっているわよ…！ 先着順でしょ。 …ヤな女。

室田 いつからなんです。

杉浦 刑務所に入つてすぐだ。 入ったのは寒い時期…一月だった、そいつは憶えてる。 症状が出始めたのは三ヶ月後…四月頃だった。 いろんなことが思い出せなくなつて、ことに気がついた。 思い出せることもあるが、まったく忘れてしまっていることもあった。

室田 一九九五年の四月ですね。

杉浦 ああ。 それ以来十年間、一進一退さ。 すまないが、あんたの姉さんのことも…

室田 一九九五年の四月十三日に、姉は自殺しました。

杉浦 …。 そのことをご存じでしたか？ いいえ、そのことを憶えていますか？

室田 …。 思い出してください。 その時になにがあったか。

杉浦 すまんが…無理だ

室田 …治療を受ければ…思い出す可能性はあるんですよね？

杉浦 …ああ。 刑務所で世話になった綿引っていう医者がある。 優秀な人だ。 あの人は

杉浦 …。 杉浦さん。 本当に…

室田 …。 杉浦さん。 本当に…

杉浦 …。 杉浦さん。 本当に…

室田 …。 杉浦さん。 本当に…

杉浦 …。 杉浦さん。 本当に…

杉浦 …。 杉浦さん。 本当に…

杉浦 …。 杉浦さん。 本当に…

室田、杉浦に近づき、平手打ち。

久保 ちよつと！ なにすんのよ！ なんだかしらないけど相手は病人じゃないの！
バカ！

室田 あなたには関係ない。

杉浦 …。

室田 約束してください、ここから出られたら、思い出す努力をするって。

杉浦 ああ…約束するよ。

室田 ありがとう。

久保 おわった？ じゃああたしの番でいいのね。まず言うておきますけど、あんた最低よ。どんなワケがあるか知らないけど、忘れたくて忘れてるわけじゃなくて病気なんだから。思い出せないってことがどんなにつらくてイヤなことか、あたしよく知ってるんだから！

杉浦 … あんた…

久保 あたしそれが言いたかったの。あなたみたいに記憶が飛んじゃうわけじゃないけど…子供の頃からね、てんかん体質っていうの？ 突然気を失って、目が覚めるとずつと時間が経っちゃって…。だからあたしもけっこう穴ボコだらけの人生ってこと。

杉浦 じゃあひよつとしてあの時…

久保 そう。久々にね、飛んじやったみたい。

杉浦 そうか…オレは…あの後のことをあんたに聞きたかったんだよ。

久保 どういうこと？

杉浦 憶えてないか？ あんたがオレの写真を撮って、オレがあんたを振り返った時、オレたちのいたベンチのずつと向こう、男がひとり歩いていくのが見えた…。

久保 え、知らない…。

杉浦 老人だった。いつ、どこで会ったのかはわからない。頭の中に一つの名前だけが浮かんできた。そしてオレは思ったんだ、あの男に会いにここに来たんだって…。あれは…久我巖。

室田 ちよつと待って。

久保 なによ急に。邪魔しないでよね。

室田 あなたたちの言ってるその公園で…横浜の、港の見える…

久保 だったらなによ。

杉浦 あんた、久我を知ってるのか。

室田 直接は知らないわ。でも、あの人は…

杉浦 知ってるよ。あの男は死んだんだろ。

室田・久保 …。

杉浦 オレはとつさに久我を追った。その後の記憶がない。気がついたらここにいた。久保 えつ、だって、龍ちゃんから電話かかってきたでしょ？

杉浦 誰だい、それ。

久保 ホラ、肘写真おくった…。迎えに行けって言ってくれたんでしょ。

杉浦 それはたぶんオレじゃない。第一、なぜオレがあんたの携帯を持っているのかわからない。

久保 えつ。えつ？ ちよつと待ってよ。

杉浦 オレの一番新しい記憶は、ここで男と話をしていたことだ。そいつが教えてくれた。久我巖が死んだこと。オレが警察に追われていること。

室田 それどんな人？

杉浦 暗がりによく見えなかった。帽子をこつ、深くかぶって…。

室田 たぶんその人よ。あたしをここに連れてきたのは。

携帯が鳴り、全員が緊張する。

久保 あたしの…。

杉浦 (携帯を差し出す) 出してみてくれ。

久保 (出る)…もしもし…えっ…

杉浦 誰だ？

久保 あなたを出せって言ってる…。

別の場所。

帽子の男登場。

杉浦 杉浦だ…。

帽子の男 残念ながら時間切れだな。

杉浦 あんた誰だ。

帽子の男 いろいろと予想外のことをしてくれるよ、あんたは。

杉浦 なんのことだ。

帽子の男 西久保に警察の監視が張り付いていることは知ってただろう。日本の警察はそう簡単にはごまかされない。彼女、タクシーを使ったようだ。タクシー会社がわかっていれば降りた場所がわかるまですぐだ。

杉浦 あんたは誰なんだ。

帽子の男 一度しか言わないからよく聞け。そのビルはじきに警察に突き止められる。すぐにそこを出るんだ。わかったな。

杉浦 なぜオレをここにつれてきた。目的はなんだ？

帽子の男 まだ捕まりたくないだろう。お互いにな。

杉浦 ちょっと待て！ あんた、オレの手帳を持ってるな？

帽子の男 …預かっているだけさ。(切る)

杉浦 おい！

帽子男退場。

杉浦 …あんた、西久保っていうのか。

久保 え、うん。そうだけど…

室田 さっき久保って言わなかった？

久保 うるさいわね、いいのよそんなこと。

杉浦 悪いがオレは消える。もうすぐここに警察がくるらしいんでね。

久保 え、ちょっと待ってよ！

杉浦 これは返すよ。もう電池も切れるだろうしな。…妙なことに巻き込んですまなかつた。

室田 杉浦さん！

杉浦 あんたも…。あなたの姉さんのことをもつと聞きたかったが…。今ここで捕まるわけにはいかないんだ。約束は守る。必ず、あなたにはもう一度会う。

室田 でも…

杉浦 あんたらもすぐここを出たほうがいい。…じゃあな。

久保 待つて！これ、これまだ電池あるから！これ持つてて。(世良の携帯を渡す)

杉浦 いいのか。

久保 なんか…手伝えることがあったら、電話してよ！…それとね！

西久保鈴が本名。久保鈴っていうのは、声優やった頃の芸名なの。あのね…ロボの歌…

杉浦 …あなたが、歌ってたのか…

久保、頷く。

久保 手帳取り戻したら、それも書いといてね。

杉浦 …借りるよ。

杉浦、退場。

室田 …。

久保 なによ。

室田 あの携帯の番号教えて。

久保 なによ、えらそうね。教えてくださって言いなさいよ。

室田 教えてください。

久保 教えてあげるわよ。とにかく、ここ出てからね。

室田、久保、退場。

暗転。

4
過去

アウトドア喫茶店みたいな場所。木場優吾が久我紀子を待っている。
久我登場。

木場 まだいろいろ大変なんだろう？ 実家のほう。

久我 うん。新聞社とかテレビとか、もうゴチャゴチャ。

木場 会社は？

久我 しばらく休みにしたの。お姉さんと一緒になっちゃったね。

木場 まあそのほうがいいかもな…。

久我 ごめんね、呼び出しちゃって。すぐ帰らなきゃいけないんだけど、ちょっと気分転換したくて。

木場 ああ、ゼンゼンいいよ。

久我 ねえ、ひとつ聞いてもいい？

木場 うん。

久我 あの時、室田先輩が会うって言ってた、杉浦って、杉浦玉男っていう人の事？
木場 そうだけど…

久我 警察の人がね、これはまだ外に出しちゃいけない事だけど、重要参考人として、
刑務所を出たばかりの杉浦っていう人があがってるって言ってたの。

木場 …。

久我 ちょっとね、気になっちゃって。

木場 …。

久我 どうしたの？

木場 それ、知ってるんだ、実は。

久我 え？

木場 昨日の夜、姉ちゃん、会ったんだよ、その人に。

久我 …。

木場 最後まで話しはできなかったらしいんだけど、とにかく会ったらしい。詳しいことはわからないんだけど、姉ちゃんはしばらくほづっておいてほしいって言った。ああなると、ガンコだから…。

久我 ねえ、どうして先輩は…

木場 こうなったら言うておいたほうがいいんだろうな。室田の家はさ、ずっと母親が
オレを連れて家を出て、オレだけが木場姓になったんだけど、もともと三人姉弟
だったんだよ。一番上に、真由美っていう姉貴がいたんだ。

久我 …。

木場 親の離婚はオレが小学校に入る前だから、オレの記憶の中じゃ、ほとんど薄れか
けてるけど、ちょうど十年前かな、自殺しちゃったんだ。

久我 …。

木場 オレが中学生くらいの時さ。オレはもうすっかり室田じゃなくて木場優吾になっ
てた。その事件で夕姉ちゃんと再会して…。オレが夕姉ちゃんと今こんな感じて
つきあってるのは、真由美姉ちゃんの自殺がきっかけなんだよ。

久我 そうだったんだ…。

木場 よっぽどショックだったんだろうな。事件の直後は、ほとんど放心状態だったよ。オレにとっては影の薄い人だったけど、夕姉ちゃんは真由美姉ちゃんのことを、なんていうか、すごく…大事にしてたんだ。

久我 大事に？

木場 口数の少ない、なにを考えてるかよくわからない人だったみたいだけど、ホラ、親が離婚して、唯一の心のよりどころみたいなのもあつたのかもしれないな。自殺の原因は…

木場 (首を横に振る) 遺書もなかったしね…だからよけい夕姉ちゃんは納得できないんだよ。…その真由美姉ちゃんが、死ぬ前につきあっていた相手が、杉浦玉男だったらしいよ。

久我 …。

木場 死ぬ前に、なにか言うとか、面会するとか…してそうだと、恋人だったら。

久我 そうね。

木場 ぶっちゃけて言うと、姉ちゃんは、杉浦さんから必要なことが聞き出せるまでは、警察に捕まってもらっちゃ困るって思ってるんだ。でも、もしそれが紀ちゃんほづの、その…

久我 ううん、犯人が決まったわけじゃないって警察の人も言ってたわ。でも探してることは確か。

木場 オレに言わせればちょっと病的な感じするけどな、あのこだわりかたはさ…。

久我 危なくないの？ 杉浦っていう人に会って。

木場 正直言つてちょっとヤバイ感じはしてる。でもあの人は、そういうことは…わかるだろ？

久我 止めてとまる人じゃないか。

木場 そういうことさ。

久我 …ごめんね、そろそろ行かないと。ねえ、先輩からなにか連絡あつたら、あたしにも知らせてね。

木場 ああ、そうするよ。

久我 それから、先輩に、気をつけてくださいって。

木場 ああ、伝えとく。

久我、退場

木場、それを見送り、退場

久保のつとめる喫茶店。
有線が流れている。

世良、登場

世良 ごめんください。…おーい。客だよ。鈴ー！…ちっ。まったく、どんな店だよ。

世良、座る。

そこへ買い出しから久保戻る。

久保 あれっ。龍ちゃん。来てた？

世良 お前、店員がふらふら出歩いてる喫茶店なんかねえぞ。

久保 いいのよ、客なんかこないんだから。

世良 客なの、客。マスターは？

久保 いるわけないじゃん。
 世良 いくら任されてるからって、もうちょっとキチンとやったらどうだよ。
 久保 いいのよ、どうせ儲けようと思ってやってる店じゃないんだから。龍ちゃん仕事いいの？

世良 中抜けしてきたの。まったくお前が勝手に携帯人にやっちゃったりするから仕事やりにくくってしょうがねえだろうが！

久保 うん。

世良 うんじゃねえだろ。

久保 だからあやまったじゃないの。

世良 だいたいお前は警戒心でものがなさすぎる。その男にしたって、どんなヤツかわかったもんじゃねえだろ。そんなヤツにオレの携帯を…

久保 わかったってば。警察でさんさんあの千堂っていう刑事さんに絞られたんだから、もう言わないでよ。

世良 …。

室田、登場

世良 お寄。

久保 …。

世良 お客だよ、オイ。

室田 なんなのここ。ホントに喫茶店？

世良 喫茶店です。な。

久保 座ったら？

室田 電話してみたの？

久保 してないわ。とりあえず、あんたの話聞いてからと思ってさ。

世良 あ、知り合い？

室田 あたしの話なんか聞いてどうするの？ 関係ないでしょ。

久保 そればかりね、あんたって。

世良 知り合いだ。

久保 龍ちゃん、もう暗くなるからさ、外のネオンつけてくれる？

世良 ええ？…ウエイトレスの言うことかね…

世良、フツフツ言いながら退場。

明かりが変わる。

別の場所に千堂が登場。

久保、有線放送のチャンネルを切り替える。

久保 突っ立ってないで座ったら？

室田、座る。

千堂手記（声） 事件発生から丸二日が経過。被害者は割れ、容疑者は絞り込まれていく。事件が、四年前の厚生省のスキヤンダルに関係していることはおそらく間違いない。あの時、香西会は不祥事の打撃から回復できずに法人を解散し、厚生省は長いトカゲの尻尾を切り落として逃げ切った。トカゲの頭であったはずの久我巖は引退し、片手落ちの決着とずいぶん騒がれたが、役所がらみのスキヤンダルでは陳腐と言えるほどよくある結末だった。おそらく杉浦は、トカゲの頭を

つぶすことができるなにかを握っていたのだろう。病院にいたところに、久我巖の指示で、新薬認可を得るためのデータをねつ造する仕事をしていた、おそらくはそんなところだ。杉浦が起こした岩淵殺害事件もまったく別の角度からの解釈が必要になるはずだ。しかしそのことをあれこれ想像したところで、憶測は憶測にすぎない。杉浦玉男を捕まえればおのずと事件の全体像は明らかになるはずだ。推理で事件は解決しない、事件は証人と物証で解決する。少なくとも私たちのレベルでは。私はそうたたくき込まれてきた。

事件の八割は初動捜査で決まる。私は初動に成功しているだろうか。確信がもてない。やるべきことはすべてやっているはずなのに、モヤモヤが残っている。…
なにかがおかしい。

喫茶店。

室田の話が一段落している。

久保 で、ムロタサンは信じてるわけ？

室田 なにを？

久保 彼が、あなたのお姉さんのこと、忘れちゃってるってこと。

室田 …。

久保 ウソだと思わなかった？

室田 …そうね。昨日は、ウソだと思わなかったわ、不思議と。

久保 …（ちよっと笑っている感じ）

室田 なんなの、その顔。

久保 公園ではじめて会った時からそうだったけど、あの人見るとなんとなくわかるのよ。この人ウソはついていないって。

室田 占い師かなんかなの、あんだ。

久保 あんたみたいになんかひねくれてないだけ。

室田 そっちこそ信じてるの？

久保 なにをよ。

室田 あの人は久我巖を殺してないって思ってるんですよ。ホントにそう信じてる？

久保 …。

室田 気がつかなかった？ 昨日…あの人が久我巖の名前を口にしたとき、なにか感じなかった？

久保 …。

室田 こう言っただけでしょ、名前だけしか思い出せなかったけど、自分はこの男に会うためにここにきた…そう感じたって…

久保 …。

室田 あたしにはこう言ってるように聞こえたわ、この男を殺すためにここにきた…

久保 考え過ぎよ…

室田 あの人はたぶんウソつきじゃないってことは私も感じるわ、だからこそ…、久我巖のことを話すときのあの人の顔、あなたも見てたでしょ。……あれは憎しみよ。

黙り込むふたり。

千堂手記(声) 凶器。アイスピック状の凶器。老人の喉を串刺しにした細い金属。私
がひっつかかっているのはおそらくそこだ。普通の凶器ではない。犯人は素人では
ないと私の勘はしつこく囁き続けている。刑務所で十年間を過ごした男が、自分
の人生を狂わせた相手を殺すときに使う凶器だろうか？ あるいは久我巖の弱み
を握る杉浦が、脅迫に応じない相手に逆上して衝動的に犯行に及んだとして、あ
れほど見事に使いこなせる道具だろうか？ 杉浦は放射線科の医師であり、メス
を握っていたわけではない。杉浦は素人だ。しかしあの凶器は違う。

喫茶店。

久保 (深呼吸一つ) わかった。

室田 …。

久保 結局、

室田 結局？

久保 あたしたちがここで考え込んでたつてなにもわからないってこと。

室田 まあ…同感ね。

久保 あんたさ、ホントのところどうなの、彼が犯人かどうかってこと…

室田 …。(わかってるでしょ？ という仕草)

久保 あたしには関係ない。オッケー。約束通り、携帯の番号教えてあげる。

世良 (小声) オレの携帯だろが、えらそうに…。

室田 ありがと。…あたしがかけていいの？ それとも先にかける？

久保 あたしはかけない。かけるのは勝手だけど、彼が出なかつたらそれまでじゃな
い？ そのうち電池切れて、役にたたなくなっちゃうわけだし。

世良 …。(久保を睨んでいる)

室田 あたしそれよりもちよつと考えてることがあるの。

室田 なに？

久保 昨日彼が言つてたお医者の名前おぼえてる？

室田 綿引？

久保 うん、あたし、その先生探してみようかなつて思つんだ。

室田 そう…。

久保 あなたに約束してたじゃない、きつとあの人は綿引つていふお医者のところに行
くわよ。

室田 そうね…

久保 だからさ、電話帳でもなんでも使つて、その先生に会いに行つてみようかつて思
うのよ。よかつたらあんた手伝つてよ、名前しかわからないんだから。

室田 あなた、なんでそこまでするの？

久保 さあ…退屈だから。

室田 ウソ。

久保 どうでもいいじゃない。しいて言えば、ホラ、似たもの同士だし、あれよ、同情
するなら金おくれ

世良 同病相憐れむ。

久保 そうそれ。…なにしてんの、さつきから。

世良、拳手している。

世良 オレ知ってる。
久保 えっ。

世良 それはね、綿引志津枝っていう女医さんで、心療内科では有名な先生だ。病院は野毛山にあるんだ。

久保 なんてそんなこと知ってるの、龍ちゃん！

世良 ええ？ それはお前！ オレはなんでも知ってるの。

久保 ね、まだそんなに遅くないし、野毛山ならすぐだから、今から行って見ない？

室田 あたしはいいわよ。行くわ。

久保 決まりね。じゃあ、閉店！

世良 おい！

久保 龍ちゃんありがと！ ネオン消しといて！

世良 コラ、ちよつと待て！

久保、室田、退場。

世良 : まったく、どうしてああじつとしてないのかねえ…。(久保に言っているつもりで) バカ野郎！ オレはな、神奈川県下の精神科や神経科の有名どころの先生は全部リストアップしてあんだ！ それというのもお前がもいちど病院通ってちゃんと治したいっていつ言いつい出してもいいように準備してんだ！ いいかげんで前向きになれ！ パンパンパン！ (はたく) わかってくれたか。(ひしゅ) …次はこれでいこ。

世良、店の電気を消し、火の元などをチェックし、退場。

手記の音が続いている。

千堂手記(声) 捜査のマンパワーは杉浦探しに集約すること。綿引志津枝から目を離さないこと。接触の可能性大。西久保鈴にも引き続き監視をつけること。本日睡眠時間二時間。これ以上の短縮は能率の低下を招くので注意。最重要事項、明朝朝イチ、過去に同様の凶器が使用されている事件がないか調べること。

千堂の声をバックに、それぞれ別の場所に、

帽子男、
仕事中的木場、
病院を探す室田と久保、
登場。

休憩時間の木場、携帯を手に迷う。
かけない。姉を思い空を見上げる。

地図を参照しながら目的地を探す室田と久保。
地図に病院は記載されているが、現在位置が地図と一致しない。
久保が地図上にランドマークをみつけ、位置がわかる。

帽子男のエリアには杉浦、登場。
帽子男、杉浦の手帳をかざしてみせる。

久保、室田、木場、千堂 退場

つかみかかる杉浦。

帽子男の腕をねじりあげる。

手帳が落ちる。

帽子男、逆に杉浦の腹に拳をめりこませる。

杉浦、崩れ落ちる。

帽子男 まったく人騒がせな男だ、お前さんは…

杉浦 なにが目的なんだ、あんたは誰なんだ…

帽子男 そんなことはどうでもいい。問題は、だ。

杉浦 …。

帽子男 あの夜、いちばんいちゃいけない男が、いちゃいけない場所にいた、それだけのことだよ。

杉浦 それは、おれのことか…

帽子男 お前さんは久我に出会うべきじゃなかった。あんたがあの公園にいたことが間違いのときさ。

杉浦 久我を殺したのはあんたか？ それとも…

帽子男 それとも？

杉浦 おれなのか…

帽子男 そう、それだ。それを思い出してくれ、杉浦。おれの願いはその一点なんだよ。あんたがあの夜なにを見たのか、苦しんで思い出してみろ。人から聞かされてじゃない、あんたが自力でどこまで思い出せるのか、それが知りたいんだよ、おれは。

杉浦 …。

帽子男 刑務所の中でお前さんが拾い集めた記憶のかけらだ。こんなものにはなんの価値もない。逃げるなよ杉浦。思い出せないのは思い出したくないからなんだ。いちばん思い出したくないこと思い出すんだよ。もがいて、ころげまわって、バラけた時間を組み立ててみせる。

帽子男、手帳を拾って杉浦にわたす。

帽子男 医者に会うつもりなら気をつけるんだな。警察が張り付いてる。どこか人気のない、邪魔の入らないところを選ぶんだ。たとえば…

杉浦 たとえば？

帽子男 ヤクザ相手の、人に見られたくない取り引きに使うような場所だよ。心当たりがあるだろ？

杉浦 … たぶんな。

杉浦、手帳を手に、退場。

帽子男、追って退場。

暗転。

5 再会

綿引医師の勤務する病院。
綿引医師、登場。
インターフォンの声。

声 綿引先生、もうお帰りになりますか？

綿引 (ボタンを押し) ええ、もう帰るわ。

声 お客さんが見えています。綿引先生に会いたいそうですが…

綿引 患者さん？

声 違うみたいです。女性のふたり連れなんですけど…どうしましょう？

綿引 用件聞いてみてくれる？

声 わかりました。

帰り支度をする綿引。

綿引、ふと、人の気配を感じて、

綿引 誰？

杉浦、登場。

綿引 …。(警戒して後退る)

杉浦 こんにちは。先生。

綿引 …杉浦さん？

杉浦 どうかそのまま。先生に危害を加えるつもりはありません。

綿引 ホントに杉浦さんなの？

杉浦 警察からなにか連絡は？

綿引 …。

再びインターフォンが鳴る。

声 あ、先生。なんかどうも要領を得ないんですが、先生の患者さんについてお話を聞きたいとかで…

綿引、インターフォンに手を伸ばす。
その手をつかむ杉浦。

杉浦 …。

綿引 悪いけど今夜は無理だわ。出直してもらおうように言ってください。

声 わかりました。

杉浦 …。

綿引 杉浦さん、あなた、こんなところにはいないほうがいいわ。

杉浦 来てるんですね、警察から知らせが。

綿引 あなたから連絡がないか、居場所に心当たりがないか。ええ、問い合わせがきてるわ。

杉浦 先生はなんと？

綿引 連絡はきていない。心当たりはない。わたしに言えることは、杉浦玉男は…
杉浦 完治していない。

綿引 あなたにはもう少し治療が必要な。今、病状は平衡状態を保っているけど、それがもし悪い方に傾いたら…

杉浦 先生。時間がありません。久我巖が死んだんです。僕が出所した日にね。

綿引 …聞いたわ。

杉浦 僕は思い出さなきゃならないんですよ。

綿引 それで、わたしのところへ？

杉浦 先生しかできない。そうでしょ？

綿引 …。

杉浦 先生。

綿引 杉浦さん、久我巖のことを思い出したのね？

杉浦 薬をやっていることが病院に知られた時から、僕はあの男のいいなりでした。まったく驚きですよ、あの男のことを忘れていたなんて…。もちろん直接指示を出していたわけじゃない。指示は岩淵という男から間接的に回ってきました。病院の

薬の横流し、そいつはあの男が考えたカモフラージュだったんです。杉浦さん、ひとつ聞くけど、あなた警察に出頭する気はない？

綿引 …。

杉浦 …。

綿引 担当の千堂警部補は、あなたが犯人とは思っていない様子だった。昔からよく知っているけど、優秀で公平な人よ。もしあなたがやっていないのなら…

杉浦 もし僕がやったのなら？

綿引 杉浦さん、あなた…

杉浦 憶えてないんです、公園で久我を見てからあとのこと。もし僕がやったんなら、壁の中へ逆戻りだ。それとも先生、僕の心神喪失を証言してくれますか？

綿引 …いいえ。あなたは心神を喪失していない。そのことは誰よりも私がよく知っている。行動しているときのあなたはあらゆる意味で正常よ。あなたはただ忘れるだけ。あなたの意識は、特定の条件下で過去を振り返るうとしたときだけ、強い拒否反応を示す。

杉浦 何です、その条件とは？

綿引 それがわかれば杉浦さん、あなたは治るのよ。…これは主治医としての忠告よ。それを探り出すのには時間がかかるの。今のような状態じゃだめ。あなたが出頭してくれば、私はあなたを治療することができます。だから

杉浦 もう一度言います先生。時間はないんです。…どのみち僕はもう一度警察につかまる。その前にケリをつけたいんです。

杉浦、綿引に紙片を渡す。

杉浦 岩淵と会う時に使っていた取り引き場所のひとつです。そこならばらく邪魔ははいらないでしょう。僕はそこにいます。

綿引 杉浦さん、私は行けない。

杉浦 先生、僕はね、刑務所に逆戻りすることが怖いんじゃない。もし記憶が戻ったとして、自分の手が血で汚れていることがわかったとしたら、自分から警察に行くつもりです。…そう未練のある世の中でもないんでね。

杉浦、退場
綿引、退場

病院の外。
久保、室田、登場。

久保 門前払い。

室田 …。

久保 どうする？ 出直す？

室田 そんな押し弱いこと言ってられないでしょ。この際…

久保 この際？

室田 もぐりこんで強引に会っのよ。

久保 アンタって意外と無鉄砲ねえ。

室田 アンタに言われたくないわ。ねえ、あそこ、地下の駐車場の入り口かな？

久保 そうみたいね。

駐車場口から侵入するふたり。退場
柱を縫うように登場

室田 どう？ なにかある？

久保 車がたくさんあるわ。

室田 当たり前でしょ。駐車場なんだから。

久保 高そうな車ばかり…。医は算術とはよく言ったもんだ。

室田 いいからドアとかエレベーターとかない？ 病院の中から降りてこられるようになってるはずよ。

久保、探す。

なにかを見つける。

室田をひっぱる。

室田 な、なによ。

久保 しいッ！ 誰か来た！

柱に隠れるふたり。

杉浦登場。

久保・室田 …！

ジタバタする久保、室田。

杉浦、警戒しつつ退場。

久保 なんて声かけないのよ！

室田 しいッ！ あれ見て。

久保 …。

室田 ホラ、カーキ色のコート着た男がついてくでしょ。

久保 …カーキ色ってなんなの。

室田 え。カーキ色はカーキ色よ。

久保 牡蠣の色ってこと？

室田 ちがうわよ。だから…あの色よ！

久保 ベージュじゃないの、あれ。
 室田 どうでもいいのよ、とにかくあれ、警察よ、きつと。
 久保 えっ、まずいんじゃないの、それって。
 室田 杉浦さん、気づいてないみたい。
 久保 どうすんの、行っちゃっわよ。
 室田 行こう。

室田、久保、退場。

千堂、携帯で話しながら登場。

千堂 よーし。とにかく絶対逃がさないで。潜伏場所を突き止めたら包围するから。うん。あたしはこれから署で待機する。え？ 一晩や二晩寝なくて死にゃないわよ。じゃ、頼んだわよ。

千堂、退場。

杉浦・室田・久保、入り乱れて夜の追跡。
 そこに帽子男が加わる。

夜の公園。

久保 あれえ：
 室田 ……
 久保 どっち行った？
 室田 ……
 久保 たしかこっちに来たわよね。
 室田 ……
 久保 なんとか言いなさいよ！
 室田 うるさいわね。あたしはヒステリックにわめく女とスプーンでご飯食べる男は死ぬほど嫌いなよ。
 久保 聞いてないわよそんなことは。
 室田 だいたいこどこなのよ。
 久保 しらないわ、なんか、公園よ。横浜って公園だらけなのよ。
 室田 あんた地元なんでしょ！
 久保 あたしの地元はあつちよ。ほら。
 室田 なんだか、すごいわね…
 久保 あたしはキレイとおもわないけど、あのあたりが、みなとみらいよ。きどっちやって、バカみたい。
 室田 ……
 久保 その向こうの、みすぼらしく光ってるあたり。あそこが瑞穂橋のあたりで米軍の輸送施設があるの。さっきあたしの店がああたりよ。
 室田 あの店、なんなの？ あんたの店？
 久保 ちがっわよ。あの倉庫もってる人がね、空っぽにしとくはもったいないからって、採算度外視でやってるの。あたしはただ一日一回好きなときに行って時間つぶししてればいいだけ。

室田 気楽なもんじゃない。それで給料もらえてるの？
 久保 うん。マスターはいい人よ。年に何回かしか顔ださないけどね。
 室田 あたしはまた、あの人がマスターかと思ってたわ。
 久保 ああ、龍ちゃん？ 違うわよ。

室田 夫婦でやってるのかと思った。

久保 (吹き出す) 違うわよお。ただの幼なじみよ。

室田 あの人、あなたの病気のこと知ってるんでしょ？

久保 そりゃね。昔からそれで迷惑かけてきたから…

室田 綿引っていうお医者さんのこと知ってたの、偶然だと思う？

久保 なにそれ、意味わかんない。

室田 別にあたしに関係ないけどね。

久保 …。

久保、なにかを発見して、室田の肩をたたく。

室田 痛いいたい。なんなのよう。

久保 (指さす)

室田、久保、隠れる。

杉浦、通過。

久保 ラッキー…。

室田 どっち行つた？

久保 あつちに降りてつた。本牧のほうだわ。

室田 カーキ色は？

久保 いないわ…だからなによカーキ色つて。

室田 行きましょ！

久保、室田退場。

捜査本部。千堂登場。

千堂、時計を気にする。携帯を発信。

夜の公園。

帽子男登場。

帽子男、振り返り、カーキ色のコートを持って戻る。

コートから携帯を取り出す。

千堂 牧村。千堂だ。杉浦はどうした…

帽子男 ああ、あなたの部下はちょっと気分が悪いそうだ。しばらく寝かしておいたほうがいいな。

千堂 …誰だ。杉浦か。

帽子男 いや。もう一人の男さ。

千堂 久我巖をやったのは君か。

帽子男 さあどうかな？ とにかくもつ少し杉浦を自由にしておいてほしい。そのあいだに、こちらはあいつの頭の中から必要なものを取り出す。そう長い時間じゃない。

千堂 …それは、四年前の厚生省の事件のことか。

帽子男 …なかなか優秀な刑事さんだな。切るぞ。

千堂 …ちよつと待て！

帽子男 …長い夜になりそうだな、お互い。

帽子男、携帯を切る。退場。

千堂 …一班から三班は、病院を起点にして牧村を探せ。残りはこのまま待機。…私

は、綿引志津枝にもう一度会う。

暗転。

6 記憶

暗い部屋。杉浦が座って手帳を読んでいる。

杉浦（声） 一九九六年、十一月一日。発病から一年と三ヶ月。今日からこのメモをつけることにする。思い出せることすべてを書き留めておく。それが記憶の強化・回復につながるかと担当の医者は言う。綿引という若い女医だが、辛抱強く責任感のある優秀な医者のように思えた。

あんな頃が自分にもあっただろうか。医者になることを志していた頃は、使命感があった。いつからだろう、医者の世界に絶望と倦怠を感じるようになったのは。自分のキャリアでは大学系列の大病院には席がなく、新興の医療法人である香西会は、臨床と研究を両立させるためにはほとんど唯一の居場所だった。まるでルーティン・ワークのようにおこなわれる医療ミスの隠蔽。医療記録の改ざん。診療報酬の不正請求。薬が唯一の逃げ場だった…。

メモを読み続ける杉浦。

喫茶店。深夜。世良がいる。

木場、登場。

木場 あ、すいません…

世良 ああ、わるいね…店、やってないんだよ。

木場 あ、やっぱりここ店だったんですね。

世良 いちおうね。今誰もいないから…

木場 あの…、室田夕ってご存じですか。

世良 ああ！ 知ってるよ、ついさっき来てたよ。

木場 （ペコリ）弟です。木場優吾と言います。

世良 ああ、うん、知ってる知ってる。そうか、君、弟か。

木場 姉がご迷惑かけてるみたいで…

世良 んなことないよ。あんたこそ、おじいちゃんのことで大変だったんだろ。

木場 …いや、僕のおじいちゃんじゃなくて、知り合いの…なんですけど。

世良 そうだっけ。ごめん。実は俺もよくわかってなくてさ。

木場 いえ、僕もほとんどなにも聞いてなくて…このお店の場所だけは聞いたもんで。姉さんは、綿引っていう医者に会いに行ったよ。例の杉浦ってエのがかかりつけだった医者らしいな。

木場 あ、そのことも、ご存じなんですね。

世良 だいたいはな。あんたんとこの、いちばん上の姉ちゃんのことも聞いているよ。

木場 そうですか…珍しいな、姉は滅多にそのこと話さないんですけど、あの…

世良。

木場 世良さんはどうして…

世良 俺じゃないんだよ。こっちにも杉浦の追っかけがいてさ。

木場 追っかけ…

世良 あんたの姉さんとごっかでごくくわしたらしいよ。で、即席コンビで結成ってわけだ。
木場 …（笑）

世良　なんだよ？
木場　ホント、珍しいですよ。姉にはほとんど友達っていないんです。ひとりだけ、会社の後輩で、慕ってくれてるのがいるくらいで。だから姉が誰かと仲良くしてるところって想像できなくて。

世良　仲良く…うん、まあ…仲は…いいのかわかるか？

木場　その人はどうして杉浦さん？

世良　さあなあ、よくわかんないんだよ、それが。でも、あんた知ってるかな…

木場　なにをですか？

世良　自転車買うならロボがいい

木場　ああ、ロボの唄。

世良　知ってる！

木場　僕が中学生くらいのとき流行りましたね。

世良　うん。

木場　あれって確かアニメに出てきたサブキャラで…こっ肩に乗る小さなロボットでしたよ。

世良　そう、その番組のスポンサーが自転車メーカーだったんで、駆け出しの声優だったあいつが、CMに起用されたんだよ。

木場　え、それが…

世良　芸名が久保鈴。あいつがまだ二十歳になるかならないかの大吉のとき。

木場　へえー。

世良　もつともそれが最初で最後だったけどな。

喫茶店で話を続ける木場と世良。

綿引の病院、外。

帰宅する綿引登場。

千堂、登場。

千堂　お帰りですか先生。

綿引　千堂さん。ずいぶん遅い時間にいらっしゃるんですね。

千堂　杉浦にお会いになりましたね？

綿引　…。

千堂　事は急を要します、先生。杉浦の居場所を教えてください。

綿引　礼状はお持ちですか？

千堂　…先生、これは私個人の見解ですが、杉浦はおそらく犯人ではありません。

千堂、持参の書類を綿引に渡す。

千堂　過去、横浜市内で久我事件と同じような凶器が使用されたと思われる事件の資料です。驚きました。五件ともすべてが未解決に終わっているんです。

綿引　それじゃあ…。

千堂　もうひとりの男は間違いなく存在します。その男はプロです。金で雇われて邪魔な人間を消す…。

綿引　千堂さん。

千堂　先生、いるんですよ、世の中にはちゃんと、そういう職業の人間が。

綿引 雇ったのは…。

千堂 厚生省の一件をこれ以上探られたくない誰か、です。

綿引 久我巖は口を封じられた、そうおっしゃるんですか？

千堂 そうだとすれば、次に危ないのは、杉浦玉男です。

メモのページを繰り、黙読し続ける杉浦。

杉浦（声） 香西会病院のことを思い出そうとすると、頭の中に霧がかかったような気になる。胃のあたりが焼け付く。それだけ思い出したくないことなのだろうか。あそこでなにをしていたのか？ 研究。実験。実験のデータを作っていたことは憶えている。コバルト60によるガン治療。抗ガン剤との併用。放射線が抗ガン剤に与える影響。そのデータを俺は、作為的にでっち上げていた。だがなぜそんなことを？ なぜ？ なぜ？

喫茶店で話を続ける木場と世良。

木場 …じゃ久保さんは杉浦さんと同じ病気ってことなんですか…。

世良 同じかわからんけど、なんだかとりつかれたみたいにごだわってるのを見ると、それも関係なくはないんだろうな。あそこまで熱中してるの見てると、める気持ちも薄れちゃうんだよ。珍しいっていえば珍しいことだしな。

木場 珍しい？

世良 ああ。どう言うのかな。もともと、声優の仕事やめちまったのも、病気が原因ってわけじゃないんだ。

木場 じゃどうして…

世良 いや、病気が原因と言えば原因か…。なんていうか、意識なくして時間がこう、プツツと途切れるだろう？ 自分がつながってないんだよ。

木場 …。

世良 俺たちには想像つかないけど、夜寝て朝起きるのは全然違っつて言ってたよ。だから、ごだわりとか、執着とか、そういうのが希薄なんだよ。普通自分てもんは一本につながってるもんだけど、薄いんだな、つながりが…。

木場 つながりが薄い…ですか。

世良 わかんねえだろ？ 俺もさ。俺にわかるのは、あいつは見かけほどお気楽に生きてるわけじゃないってことくらいだな。んなこと言ってもあんたにゃわかんねえな。

木場 …。

世良 だからさ、今度のことじゃ、なんだか特別な感じがしてるんだよ。鈴があんなに他人にごだわるっていうのがな…。

木場 …姉も、同じようなもんです。

世良 そうかい？

木場 自殺の理由を知りたいとか、そういうことより、たぶん時間が止まったままなんですよ。だって自殺の本当の理由なんて、誰にもわかんないじゃないですか。

世良 まあ、そつだよな。生きてるこっちが勝手に考えて勝手に納得するしかないわな。だから姉も、きっかけが見つからないままでもがいてるんだと思います。時計を動かすきっかけを。

綿引沈黙を破り、千堂に対し口を切る。

綿引 千堂さん、ひとつ約束してください。杉浦さんを追いつめてはいけません。彼は自力で、記憶の封印を破壊しようとしています。それは危険な行為です。急激すぎる記憶の回復は、予期しない事態を招くおそれがあります。

千堂 予期しない事態？

綿引 どんなことになるか予想はつきません。ですから、治療は私の…専門家の手にゆだねてほしいんです。

千堂 …なにがあるんです？ その封印の向こうに。

綿引 わかりません。それは彼にしかわからないことです。

千堂 先生、杉浦と久我巖のつながりを、知ってらっしゃいましたね？

綿引 …久我巖のことは、刑務所にいたときから、彼は思い出していました。思い出しでは忘れ、また思い出し、その繰り返しでした…。でもどうしても思い出せないことがあった。

千堂 それは？

綿引 岩淵光市を殺した夜のことです。

メモのページを繰り、黙読し続ける杉浦。
声とともに、明かりは杉浦のみに。綿引、千堂、世良、久保、退場。

杉浦(声) 一九九八年二月十日。後に自分がこれを読み返すとき、おそらく再び忘れてしまっているであろうことを、ここに書き記しておく。今こうして書いていても、記憶は次第に薄れ、寸断されていくのがわかる。

久我巖。この名前を忘れるな。すべてはこの男に端を発している。今日、奇跡的に頭の中の霧が晴れ、すべてを見通すことができた。あの男が私になにをさせていたのか。香西会という自らが支配する領土をどれだけ法の網の目をくぐり、どれだけ私腹を肥やしていたのか。私はそれを病棟で知り合ったある男に話した。すべてが明瞭なうちに、そうする必要があった。あの男は自分より先にここを出て行く。私はすべてを

手帳のページが数枚破りとられていることに気づき、杉浦が立ち上がる。
杉浦退場。

杉浦を追って、久保、室田登場。
目の前にひらけた光景を見直し、

室田 確かにこつちに来たわよね。

久保 なにこれ。おなじような家ばかり…。

室田 …。

久保 なんか、ゴーストタウンみたい…。

室田 これ、住宅展示場だわ…。

久保 杉浦さんは？

室田 探しましょう。

久保 探すってどうやってよ。何軒あんのよ、これ。

室田 片っ端からよ。

室田、久保退場。
 千堂、登場。地図を見ながら捜査班に携帯で指示している。

千堂 千堂だ。場所はわかった。本牧埠頭だ。おそらく杉浦が岩淵との取り引きで使っていた場所だ。十年前はたぶん倉庫が並んでいたんだろうが…今は…(地図を確認)住宅展示場の跡地だ。全員急行してくれ。

退場。
 暗転。

本牧埠頭付近、住宅展示場跡。
 久保、室田登場。

久保 いないわ。そっちは？

室田 いない。

久保 ちよつと休憩。

座り込んで休むふたり。

久保 なんか悪夢見てるみたい。北欧調の。

室田 こんな家誰が住むのかしらね。

久保 バイキングみたいなカッコした一家が住むんじゃないの。あたしはゴメンだわ。

室田 家具とかはもうなくなってるし、鍵もかかってないから、撤去するみたいね、ここ。

久保 龍ちゃんが見たらヨダレよ、これって。

室田 どうして？

久保 あいつ、家具屋なのよ。ちよつと、こんな小洒落た家にお似合いの高級なやつ。

室田 へえ…作るの？

久保 作るのも売るのもやってる。輸入モノも扱ってるみたい。いちおう、社長なのよ、あれでも。

室田 あれでもってなによ。

久保 昔は不良でさあ、よく警察のご厄介になってたもんですよ。

室田 幼なじみって言ってたわね。

久保 小学校からね。あたしの気絶する癖にずう〜とつきあってるわ。

室田 別の意味でつきあったことないの？

久保 なによ、あんた、アタシ、八関係、ナ、イ人間のくせにずいぶん突っ込んでくるじゃない。

室田 あたしだって人に話さないこと話したんだから、そのくらい教えなさいよ。パランス悪いじゃない。

久保 へんな理屈。

室田 どう見たってあの人、あなたのこと気にしてるじゃない。独身なんですよ？

久保 …。

室田 別に…話したくなければいいわよ。

久保 もつたいないのよ。

室田 …なにが？

久保 プロポーズされたわよ、家具屋がうまくいきはじめた頃にね。

室田 そつ。

久保 あの人いい人だし、好きよ。あたしが気絶してなんにもわからなくなっちゃって、落ち込んでると、一生懸命励ましてくれる。友達として、好意でそうしてくれるならいい。でも、そうなっちゃったら、あの人にとってそれが義務になっちゃう。

室田 …。

久保 あたし、わかるもん。そうなったら今みたいな関係じゃなくなる。だからね、

室田 …。

久保 あたしみたいな、いつどうなっちゃうかわかんない女には、あの人のもったいな
いってこと。

室田 …バカみたい。

久保 どうせね。

室田 …治るの？

久保 どうかしら。最初はいろんなお医者さんにかかったけど、結局わかんないみたい。

室田 …。

久保 どうする？ 杉浦さん見つからないけど、ナント力色はまいちゃったみたいだし、
今日はもうお開きにする？

室田 …。

久保 あんたはそう簡単にあきらめられないか。

室田 …。

久保 だいじょぶよ。もう一度会って言ったじゃない。きつと向こうから連絡して
くれるわよ。

室田 …。

久保 まだだんまりなの？ うんとかすんとか…

室田 …(手で制する)あそこ…あの建物…

久保 どれ？ あれは北欧風じゃないわね。プレハブかしら…

室田 二階の窓の中で、一瞬何か光ったわ。

久保 …ホントに？ 見まちがいじゃないの？

室田 確かめてみる。あんたはあんたで、好きにして。待ってるのは性に合わないの。

室田、退場

久保 ちよつとオ。まったくせつかちなんだから。ここまで来たんだから行くわよオ！

久保、退場

プレハブ内、暗い部屋。

帽子男と杉浦。

帽子男がライターをつけたり消したりしている。

帽子男 そのあとあんたの手帳には繰り返し久我の名前が出てくる。まるで呪文のよう
に何度も。なぜ忘れる？ その理由がわかるか？

杉浦、声だけしか聞こえない闇に向かって囁く。

杉浦 どこだ…。

帽子男 それはな杉浦、久我巖の名前が入り口になっているからだよ。あんたがいちば
ん忘れたがっていることにつながる何かへの入り口だ。

杉浦 どこにいる…！

帽子男 そこにつながる入り口がぼっかり穴をあけるたびに、あんたは大あわてでそれをふさぐ。その繰り返しがあんたのその手帳さ。

杉浦 手帳のページを破り取ったのはあんたか。

帽子男 ああ、そつだ、ここに持つてるさ。ちよつと三枚分だ。この日はずいぶんがんばったようじゃないか。入り口から一歩だけ足を踏み入れているよ。

杉浦 オレは…

帽子男 こんな紙切れがなくても思い出せるだろう？ ひとつも一度思い出してみてくれ。この日おまえはなにをした？

室田、久保、プレハブに侵入。

室田 声がする…！ どこ？

久保 わかんない…これ杉浦さんの声？

室田 もうひとりいるわ。……あいつよ。

帽子男、杉浦、久保と室田、それぞれに位置をかえつつ、

杉浦 あの日オレの頭の中にあつたのは…久我巖という名前を持つ男への…圧倒的な憎悪だつた…その感情が消えないあいだに、オレにはやらなきゃならないことがあつた…

帽子男 それはなんだ？

杉浦 病棟で知り合ったある男に、思い出せる限りのことを話した。そいつは裏社会の、いわゆる情報屋だつた。おどろくほどいろんなことを知っていた。病棟で一緒になることが多かったその男と、オレは時間ふさぎにいろんな話をした。そしてオレはあるとき聞かされたんだ。今まで一度も捕まったことのない、殺し屋の話を…。

帽子男 …（かちやり、ライターの蓋を閉じる）

久保 あいつつて…誰よ。

室田 あたしを、昨日のビルに連れてきた男…。

杉浦 ウソか本当はわからない、雲を掴むようなおとぎ話に聞こえた。誰にも姿を見られたことがない、金も要求せず、ただ凝り固まった怨念を精算してくれる。そんな幽霊のような殺し屋がいるのだと情報屋は言った。オレは気がついたら情報屋にすべてを話していた。記憶の暗い穴からいつときだけ浮かび上がった久我巖とオレの関係を。そして…

帽子男 そして？ そら、もう一息だ。思い出せ。

室田 明かりが見えたのは二階よ。階段はどこ？

久保 わかんない…

室田 どうしたの？ しっかりしてよ！

久保 気持ち悪い…あれ、気持ちいい…かな？

久保、床に崩れ落ちる。

杉浦 そして…岩淵…岩淵のことを…話した…

帽子男 そこだよ、杉浦。そこが次の入り口だ。お前の手帳にはまったく言うていいほどその記述がない。なぜ岩淵を殺した。どうやって？ 自分が十年も刑務所に入る羽目になった事件をなぜ思い出せない？ なぜそれを忘れようとする？

杉浦 おれは…病院をやめた…そして岩淵が…あの日、おれを殺そうとしたんだ…久我に背いたオレを始末しにヤツはやってきた…ヤツはオレに…銃をつきつけた。オレは無我夢中とびかり、拳銃を奪って…そしてヤツを撃った…

帽子男 だからあんたは情報屋にすべてを話し、そいつに託したんだ。そのおとぎ話みたいな殺し屋に久我への復讐を頼んでくれ、とな。そのことが書いてあるのがこの部分だ。そして情報屋はあんたの頼みを聞いた。久我巖が死ぬ原因を作ったのは…

杉浦 オレ…か…

崩れ落ちた久保を抱き起こす室田。

室田 しっかりして！ 目をあけて！

久保 …なんだろ…あの声聞いてたら…なんか…

室田 駄目よ！ 今は駄目！ 久保鈴！

久保 …ごめん…来ちゃった…みたい…

久保の体から力が抜ける。

帽子男 さあ、もう一息だよ杉浦。この長いトンネルも出口はすぐそこだ。久我に背き病院を辞めたと言ったな。なけなしのキャリアを捨て、医者としての未来も捨て、いつたいていどうするつもりだったんだ？

杉浦 すべてを…ぶちまけるつもりだった。

室田、久保を抱える。

室田 しっかりして。今すぐ病院につれてってあげるから！

杉浦の呼吸が速く、荒くなっている。

帽子男 おまえひとりですか？ 薬に逃避し、久我のいいなりになっていたお前のどこに

そんな勇気があった？

杉浦 …

帽子男 顔が浮かんでるだろう、頭の中に。名前は？ おまえはひとりじゃなかったんだ。誰だ？ その顔は誰だ？

杉浦 …真由美…！

室田 …！

失神した久保の体を運ぶ室田の動きが、聞こえてきた姉の名に凝然と止まる。声の降ってきた天井を見上げる。

杉浦 ……うつつ

杉浦、うずくまって呻いている。

帽子男 そつ。室田真由美だ。

室田、久保の体を柱の陰へと運ぶ。

室田 ……ここにいて。必ず、戻ってくるから。

室田、退場。

杉浦、跳ね起きて、どこへともなく飛び出そうとする。
その行く手をふさぐ帽子男。

杉浦 そこをどけ…

帽子男 どこにも出口はないぞ杉浦。思い出せ。

杉浦 やめろ…

帽子男 思い出すんだよ。久我を殺したいほど憎んだ本当の原因はなんだ？

杉浦 ……やめろ！

帽子男 わかっているはずだ。お前が発病したのは一九九四年、その年の四月、お前のもとに一通の手紙が来た。

杉浦 やめてくれ…

帽子男 それ以来、お前は自分の記憶からせつせとその痕跡を抹消しはじめた。手紙の差出人は？

杉浦 ……室田…真由美…

帽子男 手紙の内容は？

杉浦 ……。

帽子男 手紙の内容は？

杉浦 真由美の…遺書だ…。

帽子男 ……。

杉浦 おれは…忘れなければならなかったんだ…

二階に上がってきた室田、柱の陰に身を潜め話を聞く。

杉浦 ……放射線科の担当看護婦だった彼女に…オレはすべてを話していた…オレは彼女の目の中に…自分と同じものを見てた。それは…絶望の色だ。俺たちは似たもの同士だったよ…だがオレは、彼女と二人でなら、たとえ何かを作り出せなくても、なにかを破壊することはできると思った…。

帽子男 ……。

杉浦 おれたちは、二人きりで会っては、熱心に話をしたよ。すべてをぶちまけ、なにもかもを、自分を、解き放つことを。そしてオレは、そのために、病院をやめた…

帽子男 三日前、あの公園で、これと同じ事がおこったんだ。思い出したか？

杉浦 ああ、そうだ。そうだった。久我の口から真由美の名前が出た。そしてオレは思い出した。彼女が…自殺したことを…。久我は彼女のことを気づいていたよ。あの男がすっかり老いて、小さくなっていることに驚いたもんだ…。久我は、真由美の自殺の原因をオレに尋ねた。オレは手紙の…遺書の内容を思いだそうとして…そして…(額を押さえる)

帽子男 もついい。

杉浦 そして、猛烈な発作が襲ってきた。

帽子男 もうそのことはいい。それが最後の入り口なんだ。その先へはおまえは決して進めない。

杉浦 …なぜだ…

帽子男 忘れなければならなかった…さつきそう言ったな…

杉浦 オレがか？ オレがそう言ったのか…？

帽子男 ああ言ったとも。彼女の手紙を思い出すことは、お前が自分に思い出すことを禁じたことを、記憶の封印の向側にあることを、ひっぱり出す引き金になっているんだ。だが…おれはそれには興味はない。

杉浦 …。

帽子男 それはお前自身の問題だからな。さあ、最後の質問だ。お前が公園で発作に襲われた、その後、おまえはなにを見た？ それを教えてください。

杉浦 …。

帽子男 今なら思い出せるはずだ。

杉浦 …。

帽子男 なにを、見た？

杉浦 … オレが願った光景…情報屋に託した復讐の光景…あれは…夢じゃなかったのか…

帽子男 …見たんだな。

杉浦 ああ。見たよ。薄れていく意識の中で、はっきりと…久我巖が…殺される瞬間を。

帽子男 そうか。…それが、聞きたかった。ありがとう。

帽子男、銃を取り出し、杉浦に向ける。

杉浦 …。

帽子男 あんたが自力でそれを思い出せるのかどうか、それが知りたかった。

杉浦 口封し…か…

帽子男 皮肉なものだろうか？ 自分が依頼した殺しを目撃して、自分が殺されるってのは…。

杉浦 ひとつ教えてくれ。

帽子男 …。

杉浦 彼女の手紙には…なにが書いてあった？ 彼女は…なぜ自殺した？

帽子男 残念だが…それは本当にお前さんだけにしかわからないことなんだ。

杉浦 …。

帽子男 手紙はおそらくお前さん自身が焼き捨てたんだろう。知っているのはこの世でひとりだけだ。そして今夜以降は…誰もいなくなる。

杉浦 …久我殺しの真相と一緒に、か…

帽子男 杉浦。出番は終わりだ。…ハケちゃいな。

帽子男がゆっくりと杉浦に近づく。

銃口が杉浦の頭に接近する。

室田、柱の陰で懸命に携帯のキーを打つ。

室田 お願い…電池残ってて！

帽子男の背後、杉浦のコートの中で、携帯が鳴る。
虚を衝かれ、後ろを振り向いた帽子男の銃口が杉浦から逸れる。
杉浦、帽子男に飛びつく。
銃が落ちる。
帽子男、杉浦をはねのけて立つ。

室田 杉浦さん！

杉浦 来るな！

帽子男と杉浦からほぼ等距離に銃はある。

銃に駆け寄ろうとする帽子男に突進する杉浦。

久保、登場。

銃を拾い上げる。

銃口が、杉浦を振り捨てた帽子男に向く。

久保の顔にはほとんど表情がない。

室田 久保鈴！

杉浦 よせ！

久保、こともなげに引き金を絞り発砲する。

もんどり打って倒れる帽子男。

手負いの帽子男退場。

すうつと糸に牽かれるようにそれを追い久保退場。

室田 駄目よ！

久保を止めようと駆け出す室田。

床に倒れたままの、杉浦が鋭く声を発する。

杉浦 真由美！

室田、愕然と杉浦を振り返る。

杉浦 銃をこつちへ。オレに渡すんだ！ 早く！

室田 杉浦さん…

杉浦 だいじょうぶだ。なにも心配するな。オレがやった。君は今夜ここにいなかった。

オレが岩淵の銃を奪ってあいつを撃った。いいな！ 君が今夜ここにきたことは誰も知らない。

室田 すぎ…うら…さん

杉浦 オレがやったことにするんだ！ わからないのか！…頼む。そうしてくれ。オレのためにそうしてくれ…！

室田 …

杉浦 君はいつか言ってたよな…。鏡をのぞき込んだとき、自分の好きなものはなにひとつ映らないって…

室田 …

杉浦 オレもおなじさ。だけど岩淵を殺すのはオレの役割だ。君じゃない。だから、行ってくれ。ここから出るんだ。誰にも見られないうちに…。ここにはオレと岩淵だけがいた。君はいなかった。オレは忘れる。今夜君がここにいたことを…忘れる…

杉浦、意識を失つ。
その傍らで声を失つ室田。

プレハブの最上階。
帽子男登場。
その後を久保登場。
立ち止まり久保を振り返る帽子男。
帽子男と久保の視線が絡み合う。
久保の体から不意に力が抜け、床に崩れる。
帽子男、久保の手から銃を取り、退場。

暗転。

久保と室田。
気がつく久保。

久保 …。

室田 気がついた？

久保 ここどこ？

室田 プレハブの屋上。

久保 杉浦さんは？

室田 下にいるわ。ちゃんと生きてるわよ。

久保 … あたし、またやつちゃったんだ…。

室田 あんたが撃った相手は煙みたいに消えちゃったわ。あたしが上ってきたらあんただけ倒れてた。

久保 あたしになにしたらって？

室田 … なにって…

久保 あんたと一緒にここ入って…いつあたし屋上なんか登ったの…

室田 … あんた…おぼえてないの？

久保 なにがよ。おぼえてないわよ。氣失ってたんだから。

室田 … (笑い出す)

久保 なによなによ！

室田 なんでもないわ。そう、おぼえてないの…

久保 なんなのよ、やな感じ…

室田 あんたは、杉浦さんの命を助けたのよ。

久保 はあ？

室田 あの人、きつとよくなるわ。

久保 なんてわかんのよ。

室田 思い出してくれた。

久保 えっ。そうなの？ どうして？

室田 それもあんたのおかげ。

久保 もう、どういうこと？ ゼンゼンわかんない！

室田 杉浦さんに聞きなさい。後でゆっくりね。

久保 なによ、あんた、なんか、ずいぶん…明るいじゃないの…

室田 バカみたい。

久保 なによ。

室田 あんたじゃないわ。あたしよ。

久保 なんだかしんないけど、あんたの笑ったところはじめて見たわ。

室田 ついさつきまで、大泣きしてたわよ。

久保 そうなの？

室田 そうなの。

久保 …お姉さんのこと、なにかわかったの？

室田 (少し考え) ううん。結局全然わかんない。

久保 そう…

室田 そう。でも少なくとも、あたしは…

久保 …

室田 鏡を見て好きなものがなにかひとつくらいは映ると思うわ。

久保 …ふうん。なんだかわかんないけど…

座り込んで、空を見上げるふたり。

久保 あ。星なんか、出てたんだ。

室田 ホントだ。

ふたりの周囲に満天の星が、静かに光っている。

遠くにサイレンの音が鳴る。

ふたりは黙って空を見上げている。

杉浦(声) 二 五年、十一月。おそらくこの手帳に何かを書くのはこれが最後になる。真由美の最後の手紙は、彼女が死を決意した前日にかかれたものだった。私がこの手で破棄し、もはやこの世にないその手紙に書かれていたことを、ただ自らの追憶のためにここに書いておく。彼女は、岩淵を殺したことに自責の念を憶えて死んだのではない。あれは正当防衛に近い行為だった。むしろ彼女は、人を殺したことになるの動揺も憶えない自分の心の闇の深さに、絶望を深め死を選んだのだ。

杉浦の声が続く中、暗転。

7 エピローグ・休暇の終わり

警察署、室田、久保登場。

杉浦（声続き） 久我事件の犯人は、私と、室田夕の証言から、職業的殺人者、すなわちあの帽子の男と判断された。私は警察での供述後、綿引医師のいる病院に移送された。

警察署を出る室田と久保を見送る千堂。

千堂、退場。

室田を出迎える木場。

久保を出迎える世良。

それぞれ退場。

室田と久保、ふと振り返り、お互いの顔を見る。

室田 …。

久保 …。

杉浦（声続き） 男はその名前すらも不明のまま今にいたるまで発見されていない。今まで伝説のように囁かれるだけだった幻の殺し屋はしかし、久我事件を最後に、もう二度とあらわれないのではないかと、私は想像している。私が久我への復讐を間接的に依頼した情報屋の行方も杳として知れず、私の事件への関与は、殺人教唆罪を構成する物的証拠に欠けるとして、検察は私を訴追しなかった。そして私は、警察での供述でひとつだけ、嘘をついた…。

久我、登場。

室田、登場。

久我 先輩。

室田 …。

久我 思ったより元気そうですね。

室田 なによ、あんた。今日平日よ。会社は？

久我 リフレッシュ休暇です。

室田 …。

久我 先輩のほうは、まだまだこれからですね、お休み。

室田 （大きく息をついて）そうですね。

久我 保留は？ 解除になりました？

室田 （黙って頷く）

久我 なによりです。

室田 紀ちゃん、あのね、あなたのおじいちゃんのこと…

久我 警察の人からだいたい聞きました。杉浦さんという人のことや、先輩のお姉さんのことも…

室田 そう…

久我 でも、なんていうのかな、久我巖は久我巖、久我紀子は久我紀子ですから。

室田 …。

久我 少なくともあたしはそう思うことにしたんです。でも先輩がもしそうじゃない

なら…

室田 ……
 久我 おじいちゃんのことを許せないって先輩が思ってるなら…それならあたし、今日限り先輩には
 室田 紀ちゃん。
 久我 ……
 室田 あたしには、関係ないわ。
 久我 ……ハイ。
 室田 じゃあね。

室田、手を振って去りかける。

久我 先輩。

室田 ……ん？

久我 あたし、先輩が保留解除になったんなら、休暇なんか取り消して会社に来るのかなあって思っていましたよ。だってやることないでしょ？先輩いなくて大変なんですから。

室田 なに言ってるの。たつぷり休ませてもらうわよ。ちょっと季節はずれだけど、待ちに待った夏休みなんだから。

室田、退場
 久我、退場

喫茶店。

世良、奥から登場
 綿引医師、登場

世良 (携帯で) おお、オレだ。ああもう済んだよ。すぐ行くから。客は待たしとけよ。

綿引 はい。(切) おっ…と、お客さんかな？ごめんねえ、ここね、閉店すんのよ。

世良 いえ、お客じゃないんですが…あの、お店の方？

綿引 いやいや。違うんだけど…。まあちょっと椅子とかテーブルとか、処分頼まれてるんでね。えっと…

綿引 綿引と申します。

世良 え。あつ。あの、お医者の方…

綿引 はい。

世良 そらどうも…じゃああの、鈴が…じゃなくなって西久保

綿引 西久保さんとは一度お会いしました。うちのクリニックに杉浦さんのお見舞いにいらしたときに。

世良 そうですか。いやどうも…。

綿引 ここで働いてらっしゃったんでしょ？お元気ですか、その後。

世良 ええ、なんだかあれ以来妙にね。今度なんだか昔の声優の仲間と芝居やるんだとかで、ここ、その稽古場にするっていうんで…まあこつやって。

綿引 そうですか。今日は実は、合沢さんという方を訪ねてきたんですが…

世良 アイザワ…誰だろ…

綿引 ご存じありませんか。

世良 アイザワ…あれ、なんか聞いたことあるな…

綿引 あの、お急ぎだったんじゃない…

世良 あつ。そうだった。えっと、先生は…

綿引 少しここにいるもかまいませんか？ 横浜港がこんなにすぐ近くで、なんだかい雰囲気だわ。

世良 ああ、そりやかまいませんけど…。それじゃあ先生。

世良、頭ひとつ下げて退場。

綿引 (椅子に座り、独り言のように語りはじめる) つい最近、もと厚生官僚の久我巖が殺された事件がありましたね。未だに解決されていませんが、それと同じような事件の資料が、私の手元にあるんですよ。神奈川県下で五件。ごく一部で今も囁かれている、幻の殺人者…凶器は細い金属の針…被害者は社会的地位が高く、法律の手が届かない人間ばかり…まるで現代の仕掛け人みたいな話だけど…。でもいちばん最初の事件だけは違うんです。

一九八五年、被害者は無職の男性で、笠井章一という中年の男性。アル中で、毎晩のように妻に暴力をふるう男だったようですが、その後の被害者とはあまりにも違うタイプです。

二十年前、手口は久我事件と全く同一のこの事件を担当した若い刑事がいました。それが、合沢直人。あなたです。

マスター (帽子の男)、登場。

綿引 退職して、今はこの店のマスターというわけですね。

マスター ここはもう閉めるんです、綿引先生。

綿引 そしてあなたは？

マスター しばらくは、また、戻らないでしょう。もしかしたら、一度とね。

綿引 どうしてお辞めに？

マスター 警察ですか？ それともこの店？

綿引 両方です。

マスター まあ…どっちも儲からないから、とでも答えておきますか。

綿引 久我事件の調書を見ました。もちろん非公式にですが…

マスター そいつは…親しい方がいるんですな、警察に。

綿引 ええ。あの調書で納得のいかない事があるんです。杉浦さんは、西久保さんに写真を撮られたため、気絶している彼女の手から携帯を持ち去ったと言っています。しかしその時点では彼は久我殺害を目撃していません。犯人ではない彼にそんなことをする理由はない。それならいつ彼は携帯を手にしたのか。考えられる可能性は、殺人を目撃した時。だとしたら犯人は帽子の男ではない。杉浦さんに犯行現場を見られた犯人が、彼に携帯を預けた…。携帯は犯人から杉浦さんに直接手渡されたんです。そしてそのことを杉浦さんは忘れた。

マスター …彼がそう言ったんですか？

綿引 いいえ、すべては私の想像です。それを確かめにここに来たんです。

マスター なるほど…

綿引 笠井章一事件の時、彼の妻には連れ子がいましたね。十歳の女の子が。

マスター ええ。かわいそうな子だね。母親が男の暴力の犠牲になるのを、その子は毎晩じつと見つめていた。笠井の死体が発見されたとき、その子がすぐ近くで気を失って倒れていた。

綿引 合沢さんはその後何かにつけてその親子に気を配っていらっしやったようですね。…しばらくのあいだ、母と娘は笠井姓のままだった。母親が病気で死んだ時、女の子は母親の旧姓に戻った。西久保姓に。

マスター 綿引先生、あなたはこの話を…

綿引 私はただ確認したいだけです。もしかすると、将来西久保鈴のカルテを書くことになるかもしれませんから。

マスター ……。

綿引の顔をじっと見つめるマスター。

マスター 母親が死んだあと、ひきとってしばらく面倒を見ていたんです。そして気づいた。あの子の中の、もうひとつの人格。…それは破壊の衝動そのものです。

綿引 タナトス…

マスター コントロールできるようになるまで長い時間がかかった。それでも完全にさせることはできなかった。殺さずにいられないのなら、殺す相手を選ぶしかない。

綿引 ……。

マスター 今回がはじめてなんですよ。彼女が犯行を目撃されたのは。

綿引 なぜ杉浦さんに携帯を？

マスター 凶器を、現場から遠ざけるためです。

綿引 ……？

マスターの携帯が鳴る。

マスター (携帯に出る) ああ。今店だ。いや来なくていいさ。この倉庫は当分好きに使っていいから。ああ。とうぶんはな。鈴。…元気でやれよ。(切る) 携帯電話つてやつはあまり好きじゃなくてね。ただ役にたつこともある。たとえば細くてとんがったものを、このアンテナに部分にしまいこんだり、ね…。

綿引 ……。ええ。

マスター 閉めますよ。

綿引、マスターに促され、一礼して退場。

マスター、がらんとした倉庫をしばし振り返り、

倉庫の電気を消す。

マスター退場。

幕。